

高校生の**探究活動**と**進路選択**

新学習指導要領が全面実施され、全国の高校で探究活動が本格的にスタートしました。

探究活動の中心となる「総合的な探究の時間」では、生徒が自己の在り方を深め、将来の進路実現や、社会の一員としての生き方の検討につなげていくことが期待されています。

大学入試の動きに目を向けると、近年は総合型選抜や学校推薦型選抜での入学者が増えているほか、「探究評価型入試」を導入する大学もみられます。

そうした状況の中で、高校生の探究活動を進路選択、大学入試、そしてその先の社会へとつなぐため、多くの高校で工夫がなされています。

今回は、先進校に取り組みのポイントと、実施上の課題をインタビューしました。

Contents



Part 1 新学習指導要領と探究活動

➔ p6



Part 2 探究活動と大学入試

➔ p10

- | | | | |
|----------|---------------|------------|----------|
| ● 東京大学 | ● 京都大学 | ● 大阪大学 | ● 大分大学 |
| ● 関西学院大学 | ● 工学院大学 | ● 奈良女子大学 | ● 島根大学 |
| ● 金沢大学 | ● 桜美林大学 | ● 大正大学 | ● 佐賀大学 |
| ● 九州工業大学 | ● 高知大学 | ● お茶の水女子大学 | ● 産業能率大学 |
| ● 高崎商科大学 | ● 立命館アジア太平洋大学 | | |

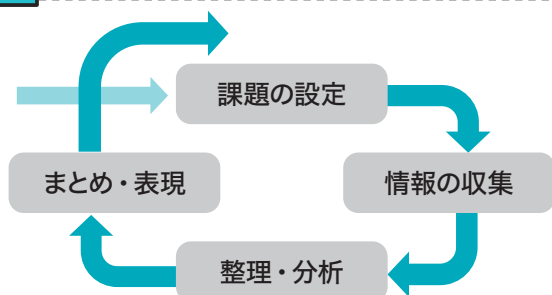


Part 3 取り組み事例

- | | | | |
|-------------|-------|--------------|-------|
| ● 京都市立堀川高校 | ➔ p14 | ● 大阪府立四條畷高校 | ➔ p18 |
| ● 山梨県立甲府南高校 | ➔ p22 | ● 札幌市立札幌藻岩高校 | ➔ p26 |
| ● 旭川実業高校 | ➔ p30 | ● 河合塾 | ➔ p34 |

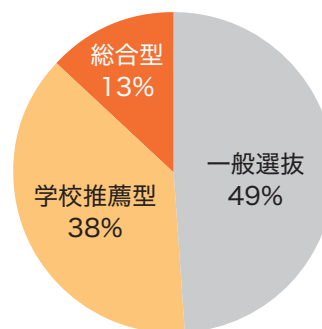
overview

1 新学習指導要領と探究活動 → p6



- ◆各教科・科目で「探究」を重視
- ◆探究のプロセスを発展的に繰り返す
- ◆自己の在り方生き方と不可分な課題を発見・解決

2 探究活動と大学入試 → p10



※令和3年度国公
私立大学入学者
選抜実施状況

- ◆総合型・学校推薦型選抜での大学入学者が約半数
- ◆探究活動評価型入試の導入

3 取り組み事例

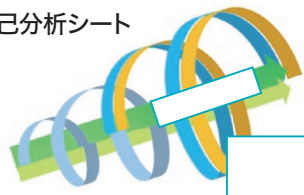
京都市立堀川高校 p14



- ◆理数探究基礎で型を学び探究基礎で興味・関心を広げる
- ◆研究テーマを生徒と教員が共有し、面談を深める
- ◆探究的な思考や進め方は教科学習にもつながる

大阪府立四條畷高校 p18

自己分析シート



- ◆学びの航海図をまとめ、大学での学びを考える
- ◆自己分析シートを作成し、進路選択の指針として活用
- ◆作成した資料を進路希望面談や自己推薦文に活用

山梨県立甲府南高校 p22



- ◆多様なプログラムで生徒の興味・関心を喚起
- ◆ポートフォリオにあらゆる活動の内容を記録
- ◆ポートフォリオを志望理由書等の作成に活用

札幌市立札幌藻岩高校 p26



- ◆チャレンジしたいマイテーマを発見
- ◆仕事×ミライ図鑑に仕事と生き方をまとめる
- ◆ミライを描く力を伸ばし主体的な進路選択を実現

旭川実業高校 p30

		判断基準			
選択肢	物理学				
	生物学				
	...				

- ◆自己と社会を理解し、未来を想像（創造）する
- ◆意思決定の手法を学び、探究や行事を進路選択に結び付ける
- ◆社会課題の探究を志望理由書の作成に活用

河合塾 p34



- ◆ミライ研で、興味・関心を発見するきっかけづくりを支援
- ◆先進校の経験から学ぶトークセッションを実施

Part 1

新学習指導要領と探究活動

自己の在り方生き方と不可分な課題を探究し 進路選択、キャリア形成につなげる



Point

- ✓ 探究のプロセスを発展的に繰り返す
- ✓ 自己の在り方生き方と不可分な課題を発見・解決
- ✓ 探究活動と在り方生き方をつなげる仕掛けも不可欠

総合的な探究の時間の特徴

問題解決的な学習を発展的に繰り返す

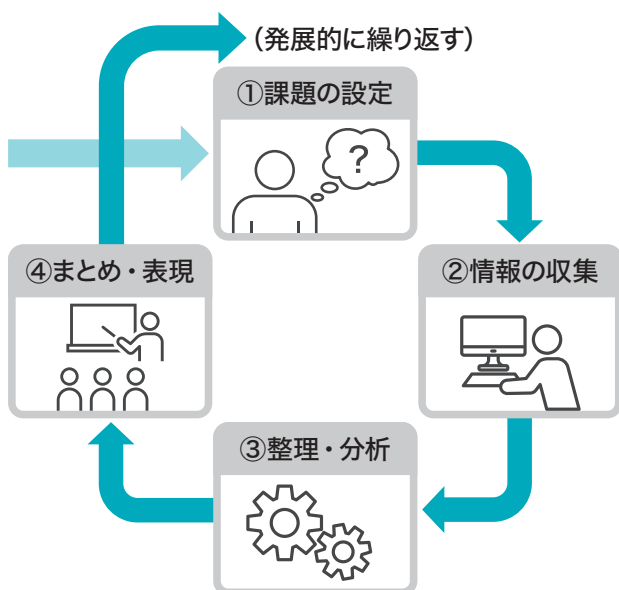
高等学校の新学習指導要領では、「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に改められた。さらに、新設教科『理数』に「理数探究基礎」「理数探究」が設けられ、「古典探究」「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」が設置されるなど、「探究」は新学習指導要領のキーワードとされている。

多くの学校で探究活動の中心となる「総合的な探究の時間」は、＜図表1＞のように、**問題解決的な学習を発展的に繰り返す**ことが特徴である。生徒は①日常生活や社会に目を向けたときに湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら【課題の設定】をして、②そこにある具

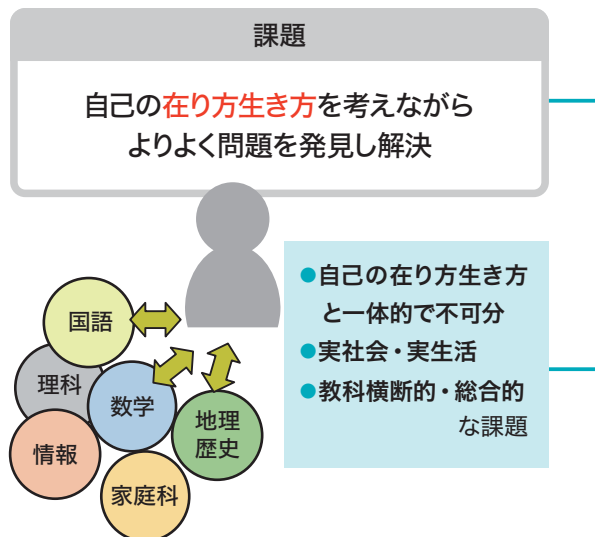
体的な問題について【情報を収集】し、③その情報を【整理・分析】したり、知識や技能に結びつけたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み、④明らかになった考えや意見などを【まとめ・表現】し、そこからまた新たな課題を見つけ、更なる問題の解決を始めるといった学習活動を繰り返していく。

また、＜図表2＞のように**自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題**を発見し、解決していくことなどが、「総合的な学習の時間」との違いとされている。**実社会・実生活の課題、教科横断的・総合的な課題**を探究する点も特徴だ。一方、「古典探究」や「地理探究」などの科目は、その教科で学ぶ知識・技能や見方・考え方を深めることをめざしており、探究するテーマもその教科に関連したものとなる。

図表1 探究のプロセス



図表2 総合的な探究の時間で取り組む課題



※図表は全て学習指導要領解説より作成

図表3 探究課題の例

四つの課題	探究課題の例	
横断的・総合的な課題 (現代的な諸課題) SDGs 等を参考に	国際理解 情報 環境 福祉 健康 資源エネルギー 食 科学技術	外国人の生活者とその人たちの多様な価値観 情報化の進展とそれに伴う経済生活や消費行動の変化 自然環境とそこに起きているグローバルな環境問題 高齢者の暮らしを支援する福祉の仕組みや取り組み 心身の健康とストレス社会の問題 社会生活の変化と資源やエネルギーの問題 食の問題とそれに関わる生産・流過程と消費行動 科学技術の発展と社会生活や経済活動の変化
地域や学校の特色 に応じた課題 社会に 参画・貢献	町づくり 伝統文化 地域経済 防災	地域活性化に向けた特色ある取り組み 地域の伝統や文化とその継承に取り組む人々や組織 商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会 安全な町づくりに向けた防災計画の策定
生徒の興味・関心 に基づく課題	文化の創造 教育・保育 生命・医療	文化や流行の創造や表現 変化する社会と教育や保育の質的転換 生命の尊厳と医療や介護の現実
職業や自己の進路 に関する課題	職業 勤労	職業の選択と社会貢献及び自己実現 働くことの意味や価値と社会的責任

探究課題のポイント

適度に抽象的で、幅の広い探究課題を設定
自己の在り方生き方と不可分な課題を探究

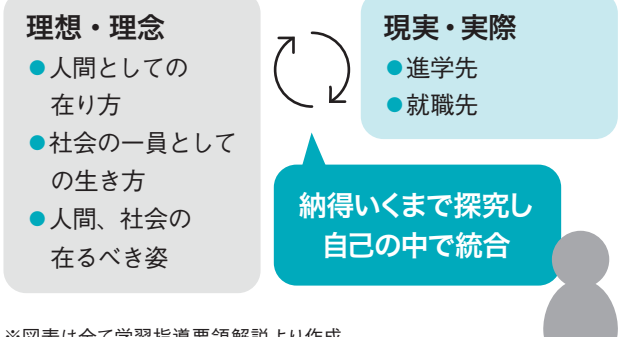
「総合的な探究の時間」では、育成をめざす具体的な資質・能力と、その実現のためにふさわしい探究課題を、各学校が設定する。探究課題の例としては、＜図表3＞の4つが示されており、これらを参考にしながら、地域や学校の実態、生徒の特性等に応じて設定することが求められている。4つの課題は相互に関連しているため、実際には複合的な探究課題が設定される。

生徒が実際に取り組む課題は、学校の探究課題に基づいて設定することになる。そのため探究課題は、生徒の多様な問題意識と関連付けられるよう、幅の広さや奥行きを深さをもつことが望ましいとされている。そこで、「持続可能な開発目標（SDGs）」の17の目標などを参考にしている学校も多い。

また、「自己の在り方生き方と一体的で不可分に結びついた課題」を比較的设置しやすいこと、社会に参画・貢献していることを実感しやすいこと、体験活動を取り入れやすいことなどから、地域と連携し、**地域や社会に関わる課題**に取り組む学校も多い。

高校生は、自分の生き方、生きる意味、人間や社会の

図表4 高校生の発達段階と探究



※図表は全て学習指導要領解説より作成

在るべき姿などについて思い悩み、考えを深める時期である。一方で、進学先や就職先を現実的に決める必要がある。「総合的な探究の時間」では、その両面から思う存分、納得がいくまで探究する機会を提供し、自己の中で統合できるまでに導くことが求められている＜図表4＞。探究課題の4つの例の中に**職業や自己の進路に関する課題**が含まれているのには、そのような背景がある。

また、「在り方」は、進路実現のような個人的な生き方を追求するだけでなく、**社会の一員としてどう生きていくか**という側面からも具現化していくことが求められている。現代的な諸課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に応じた課題に取り組む場合は、この点にも注意したい。

探究活動と進路学習

調べ学習や講義受講にとどまらない工夫が必要

「総合的な探究の時間」の中で、職業や進路に関する学習を行う高校は非常に多い。世の中にはどのような職業があるのか、自分はどんな職業に就きたいか、そのためには大学でどのような学問を学ぶ必要があるかなど、特別活動や学校行事と連携しながら深めていく。

その際、課題の発見・解決のプロセスを意識することが欠かせない。例えば、大学訪問やインターンシップなどを行う場合も、事前学習としてさまざまな大学や学問、職業などについて理解を深め、そこから生徒が課題を見つけた上で参加することが求められる。また、事後学習として、参加の目的や課題に照らして何を考えたか、さらにどのような課題が生まれてきたのかなどを振り返り、レポートや論文にまとめ発表するなど、**探究のプロセスを発展的に繰り返す**ように設計することが大切となる。

探究活動と進路選択

興味・関心を発見するきっかけを用意し

探究テーマを在り方生き方と結びつける

今回、取材にご協力いただいた高校の先生方には、「探究活動をどのように進路選択に結びつけていくのか」を共通で聞いた。多くの先生方から「**生徒の好奇心、興味・関心をもとに探究活動を行えば、自然と進路選択につながっていく**」と回答があったものの、それぞれの高校の取り組みを見ていくと、生徒が興味・関心のあるテーマを発見したり、探究活動の内容を生徒の在り方生き方に関連づけたりするさまざまな工夫を行っていた。また、いずれも探究のプロセスを複数回経験するよう、体系的な指導を行っていた。

京都市立堀川高校 (p14) は、20年以上にわたって実践を蓄積してきた。今年度からは、1年次に「**理数探究基礎**」を置き、探究の「型」を学ぶ時間とすることで、探究活動の肝となる課題設定に向き合う時間を確保した。自分が本当に興味のあることは何か、とことん向き合うことで、探究を愉しむことにつなげている。また、「探究」が教員と生徒の間での共通言語となっており、進路面談でも個人研究のテーマが話題の中心となることも多いそうだ。

大阪府立四條畷高校 (p18) は、大学で研究する学問領域と社会課題の関係性をまとめた「**学びの航海図**」を作成し、大学への理解を深める。また、高校での活動を振り返るとともに、「学びたいこと・習得したい技能」や「10年後になりたい人物像」などを「**自己分析シート**」に記入し、進路選択の指針としていく。さらにそれらの資料を進路希望面談や、自己推薦文などにつなげており、探究活動と進路指導が有機的に連動している。

山梨県立甲府南高校 (p22) は、「フロンティア探究」での課題研究を中心に、「フロンティア講座」や「サイエンスフォーラム」、教科横断型の授業など、生徒の興味・関心を広げる非常に多様なプログラムを用意している。さらに、それらの活動内容は「**南高オリジナルポートフォリオ**」にまとめ、志望理由書の作成などにも活用している。

札幌市立札幌藻岩高校 (p26) は、職業調べや社会人へのインタビューや地域課題解決の学びなどを経験し、3年次には探究活動の集大成として「**仕事×ミライ図鑑**」を作成する。職業等の調査結果に基づいて10～20年後の社会を予想し、自分がどのように生きていきたいのか等、ワークシートにまとめていくものである。それぞれの生徒が社会の一員としてどのように生きていきたいのか考える活動として、非常に参考になる事例だろう。

旭川実業高校 (p30) は、自己と地域・社会との繋がりに応じた課題と、進路・職業に関する自己実現に向けた課題を探究課題とし、3年間を通じて「**職業**」や「**進路**」をテーマとした探究活動に取り組むことが特徴だ。さらに、意思決定の方法を学び、興味のある学問を重みづけするプログラムなども導入し、それぞれの生徒が自分なりの判断基準をもち、進路選択ができるようにしている。

また、大阪大学の「SEEDSプログラム」、桜美林大学の「ディスカバ！」など、高校生が探究・研究を体験するプログラムに力を入れる大学も少なくない。河合塾の「**ミライ研**」(p34)のように、生徒の興味・関心を見つめるきっかけづくりを支援する企業・団体も増えている。これらも活用しながら、それぞれの生徒が在り方生き方と一体的で不可分な課題を設定できるよう、各高校が取り組みを充実させている。

探究活動と大学入試

総合型選抜を中心に

探究活動の経験を生かして進学する生徒も

高校までに豊かな探究活動を経験した生徒は、興味・関心を持つ課題について深く理解し、自身がどのようにかわりたいのかが明確となり、学びたい学問や大学の志望理由も具体的になっていく。

探究活動の経験を通じて、知識・技能を教科横断的・総合的に活用する力、「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現」といった課題解決の力などが身につけられる。また、＜図表6＞のように、「自分自身に関すること」「他者や社会との関わりに関すること」が一体となった資質・能力として「学びに向かう力、人間性等」が発揮され、育成されていく。

これらの資質・能力は、主に総合型選抜において、志望理由書や活動報告書、面接や口頭試問などを通じて評価する大学が多い。また、「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現」などの場面を組み込んだ選抜方法を導入する大学も出てきている（p10参照）。そこで、探究活動の経験をベースに総合型選抜での大学受験を視野に入れる高校生も増えている。

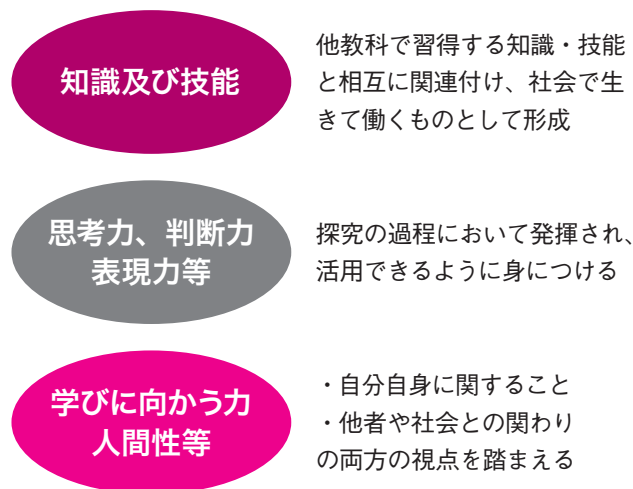
一般選抜での受験をめざす場合も、探究活動を通じて学びたいことが明確になったり、教科の学習への興味・関心や理解が深まったりして、受験勉強のモチベーションが高まるといった声も聞かれる。あるいは、課題について自分自身で考え抜き、レポートやプレゼンテーションにまとめるなど、「やりきった」経験が自己肯定感の

向上や、受験勉強に粘り強く取り組む力につながる生徒もいる。

また、探究活動の経験や、そこで培われる資質・能力は、大学での研究やゼミナール活動や、その後の社会でも強く求められるものである。

探究活動と進路選択、大学入試、そして大学や社会での活躍への影響などは明らかではないものの、好影響を感じる先生方は少なくない。新学習指導要領が全面実施され、全国の高校が「総合的な探究の時間」の実践を蓄積していく中で、高校生の進路選択はどのように変わっていくのか、注目していきたい。

図表5 育成する資質・能力



図表6 学びに向かう力、人間性等

	例) 自己理解・他者理解	例) 主体性・協働性	例) 将来展望・社会参画
自分自身に関すること	探究を通して、自己を見つめ、自分の個性や特徴に向き合おうとする	自分の意思で真摯に課題に向き合い、解決に向けた探究に取り組もうとする	探究を通して、自己の在り方生き方を考えながら、将来社会の理想を実現しようとする
他者や社会との関わりに関すること	探究を通して、異なる多様な意見を受け入れ尊重しようとする	自他のよさを認め特徴を生かしながら、協働して解決に向けた探究に取り組もうとする	探究を通して、社会の形成者としての自覚をもって、社会に参画・貢献しようとする

※図表は全て学習指導要領解説より作成

Part 2

探究活動と大学入試

高大接続改革・高校教育改革を背景に 探究活動の実績や、探究力を評価する入試が増加



Point

- ✓ 総合型選抜・学校推薦型選抜での入学者が増加
- ✓ 出願書類に探究活動の経験、成果を記載
- ✓ 「探究のプロセス」に関する場面を設ける選抜方法も登場

総合型・学校推薦型での入学者が増加 探究を重視した選抜方法も登場

近年、志願者の資質・能力を多面的・総合的に評価するよう、多くの大学が入学者選抜を工夫している。総合型選抜・学校推薦型選抜の入学者が国立大でも2割近くに迫っている<図>ほか、一般選抜での面接の実施や、出願書類で高校での学習経験を把握する動きがみられる。さらに、探究活動に力を入れる高校が増えていることを踏まえ、探究活動の実績や、探究活動を通じて培われる資質・能力を評価する入学者選抜が導入されている。

いずれも募集人員は多くないが、志望大学にこのような選抜方法がある場合、高校において探究活動に力を入れてきた生徒は挑戦も検討したい。

●出願書類や面接で探究活動の実績を評価

志望理由書や推薦書に、高校での探究活動の経験や成果を記載させ、探究活動に関する面接やプレゼンテーション、質疑応答などを課すパターン。高校での探究活動

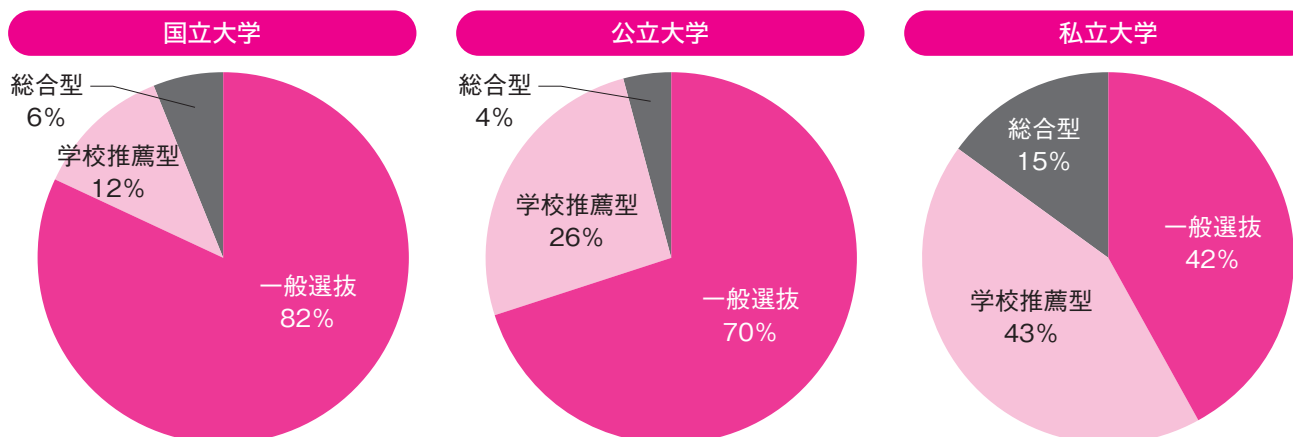
と、大学での学習・研究や大学卒業後の進路との関係性を考え、志望理由を明確にすることが求められる。一部、コンテストでの受賞などを出願要件とする場合もある。

●探究のプロセスに関する場面を設定

選抜の中で探究のプロセス（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）に関する場面を設け、探究・研究する力や意欲、アドミッション・ポリシーとの適合性などを評価するパターン。九州工業大学の「レポート」「課題解決型記述問題」、お茶の水女子大学の「図書館入試」、スマートフォン等の持ち込みが可能な産業能率大学の「未来構想レポート」、高崎商科大学のブレインストーミングプログラムなど、各大学が多様な選抜方法を用意している。

これらは、探究活動の成果そのものが評価対象となるわけではないが、「総合的な探究の時間」などにおいてこれらの活動を繰り返してきた生徒にとっては、力を発揮しやすい選抜方法と考えられる。

図 入試方式別入学者の内訳（2021年度入学者）



（文部科学省「令和3年度国公立大学入学者選抜実施状況」より作成）

出願書類や面接で評価

・*のついた入試方法は2023年4月入学向け、他は2022年4月入学向け募集要項等から作成。
・6月15日時点の公表情報から作成。出願の際は、必ず最新の募集要項等をご確認ください。

東京大学 教育学部 学校推薦型選抜

学校
推薦型

- 教科の基礎学力と、探究学習の卓越した実績・能力が推薦要件

選抜方法



要件① 本学のカリキュラム履修に必要な教科の基礎学力
要件② 探究学習の卓越した実績・能力（論文、作品、発表等を通じて示せるもの）
について記載

京都大学 教育学部 特色入試

総合型

- 高校・大学での学び、卒業後の進路までを通した**学びの設計書**で、意欲や志を評価
- 探究活動の成果などをまとめた**学びの報告書**で、高校での学習行動や学習成果を評価

選抜方法



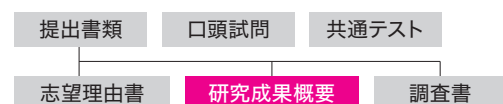
・中学時代から現在までに取り組んだ「学び」の活動（各教科での学習や総合的な学習の時間、読書、課外活動、学校行事での活動、ボランティア活動等）のうち、主なものを記述
・大学での学びに向けて、重要な3つの活動を説明

大阪大学 理学部 総合型選抜 研究奨励型

総合型

- SSH生徒研究発表会やコンテストの出場者、学会での発表者等が対象
- 大阪大学SEEDSプログラム^(※)修了者も対象
※高校生に大学での研究機会を与えるプログラム

選抜方法（化学科・生物科学科）



以下の内容を記載
・研究の要旨 500字程度
・研究内容等 A4用紙7枚以内
・研究に対する志願者の貢献度

大分大学 経済学部 課題探究型学習に基づく選抜制度

総合型

- 総合的な学習の時間や、高大接続事業での探究活動の経験者等が対象
- 出願書類に課題探究型学習の成果を記載

選抜方法



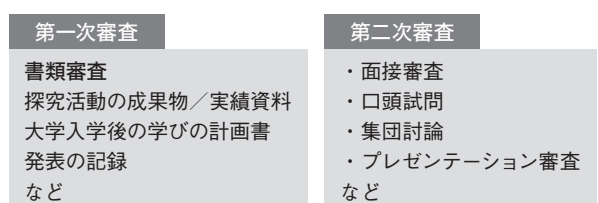
・志望理由
・課題探究型学習に関連して努力したこと
・課題探究型学習を生かした今後の目標や将来の夢
・高校での学習活動で特にアピールしたいこと（探究除く）

関西学院大学 探究評価型入試

* 総合型

- 高校等での教育課程内の授業等において探究活動に取り組んでいる生徒
- 探究活動について外部で成果発表等を行った生徒などを対象に、探究学習の実績を評価

選考方法

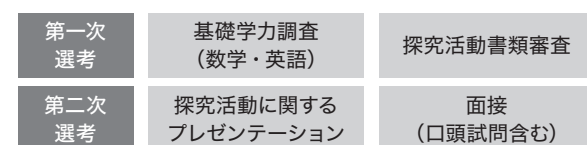


工学院大学 探究成果活用型選抜

* 総合型

- 高校の総合的な学習（探究）の時間での学習経験や成果を評価
- 成績優秀者は授業料を50%減免
- 「工学院大学機関リポジトリ」に探究データベースを設置。SSH校の生徒などが参照可能

選考方法



・*のついた入試方法は2023年4月入学者向け、他は2022年4月入学者向け募集要項等から作成。
・6月15日時点の公表情報から作成。出願の際は、必ず最新の募集要項等をご確認ください。

奈良女子大学 文学部 探究力入試「Q」

＊ 総合型

- 志望理由書に、テーマ^(※)と探究の関係を記載
- 本人の探究活動での役割や様子などを、教員等が**志願者評価書**に記載
- この入試での入学者は1年次に「探究入門」受講

選考方法

第一次選考	調査書	志願者評価書	志望理由書
第二次選考	小論文	口述試験	

※「ことばと人間の探究」
「社会と人間の探究」
「地域と環境の探究」
「ならの探究」の4つ

- ①テーマ^(※)を選択するに至ったこれまでの「探究」の体験や学びについて
- ②大学入学後に体験や学びをどのように生かしてどんなことを「探究」したいと考えているか

島根大学 へるん入試

総合型

- 志望理由書で「**学びのタネ**」を40字以内で記載
- クローズアップシート**に、高校での活動で最も力を入れた取り組みを記述（800字程度）
- 調査書別紙**に探究活動の取り組み内容を記載

選抜方法（へるん一般型）

出願書類	面接	読解・表現力試験
調査書（別紙含む）	クローズアップシート	志望理由書

（別紙）教員が本人に以下の点などを確認しながら、主体性の具体、探究心の具体を記載
・テーマ設定の理由
・探究活動の中での気づき、苦勞、得られたこと

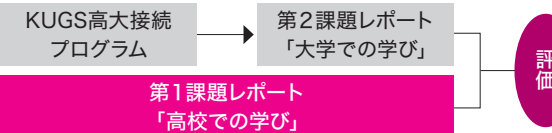
金沢大学 KUGS特別入試

総合型 学校推薦型

※学域により異なる

- KUGS高大接続プログラム**を修了し、出願が認められた者に出願資格を与える
- 「大学での学び」「高校での学び」の2つの課題レポートを作成

出願資格を得るまで



高校生活の中で課題意識を持って解決に取り組んでいる学びについて、課題レポートを作成（1,000～1,400字）。

桜美林大学 探究入試Spiral

総合型

- 学習指導要領に準拠して、探究力を評価
- 探究的な教育プログラム「**ディスカバ!**」を高校生に提供

※「ディスカバ!」受講は必須としない

選抜方法

第一次審査	第二次審査
書類審査 ・調査書 ・入学志願者調書 ・探究学習報告書 ・志願者評価書 ・活動報告書	書類審査 面接 ・探究学習に関するプレゼン ・プレゼンと書類に関する質疑応答

大正大学 地域創生学部 地域戦略人材育成入試

＊ その他

- 高校時代に探究活動やプロジェクトを実践した生徒が対象
- 授業料減免、プロジェクトに対する教職員等の伴走などの支援

試験科目

第一次審査	志望理由書	調査書
第二次審査	プレゼンテーション	面接

- ・学校・地域における活動を通じてどのように資質・能力を身につけてきたか具体的に記述
- ・出願に至った経緯を、学校や地域における様々な活動とつなげて具体的に記述

佐賀大学 特色加点制度

一般

- 探究活動や部活動の取り組みや実績を任意で提出（**特色加点**）

- 合否ボーダー層を評価の対象に

※特色加点の扱いは学部により異なる

入試方法

共通テスト	個別学力検査	特色加点
-------	--------	------

特色加点申請書類（抜粋）

- ・活動実績の概要
規模、参加資格、入賞条件、課題研究の成果等
- ・活動・実績を証明する資料
- ・APや入学後の学びとの関連性

探究のプロセスに関する場面を設定

・*のついた入試方法は2023年4月入学者向け、他は2022年4月入学者向け募集要項等から作成。
・6月15日時点の公表情報から作成。出願の際は、必ず最新の募集要項等をご確認ください。

九州工業大学

総合型選抜Ⅰ

総合型

- 入学までの学びも見据え**レポート**を執筆
- 課題解決型記述問題**でエンジニア適性を評価
- レポートのサンプル、課題解決型記述問題の例題をホームページで公開

選抜方法

第1段階 選抜	レポート	課題解決型記述問題
第2段階 選抜	学びの 計画書	適性 検査
	グループ ワーク	個人 面接

- ・数学、科学、工学分野の講義を受講
- ・キーワードを抽出し簡単に解説、講義内容を要約
- ・入学までにどのような学びが必要かレポート作成

高知大学 地域協働学部

総合型選抜Ⅰ

* 総合型

- ゼミナール活動適性試験**でグループワークと「振り返り演習」を実施し、受験者のふるまい（発言、傾聴、行為等）を評価

選抜方法

第1次選抜	講義理解力試験	ゼミナール活動 適性試験
第2次選抜	口頭試問を含む面接	

- ①指定テーマに基づくグループ討議
- ②振り返り演習
…議論もしくは行動の結果と、グループ活動のプロセスでのチームの在り方を考える

お茶の水女子大学

新フンボルト入試

総合型

- 研究（探究）活動を試験に組み込む
- プレゼミナール**で大学の授業を体験
- 図書館入試**と**実験室入試**で、知識を応用する力を評価

選抜方法（文系）

選抜方法（理系）

①プレゼミナール	①書類選考
↓	↓
②図書館入試 ・附属図書館を活用し、レポート作成 ・グループ討論、面接	②実験室入試 ※理学部化学科の例 ・テーマに沿った実験 ・レポート作成 ・個別面接

産業能率大学

未来構想方式

* 一般

- 事前記述課題**に探究学習の経験を踏まえて解答
- 社会では情報検索しながら働くことを前提に、**未来構想レポート**ではタブレット、スマートフォンの持ち込みを許可

選考方法

共通テスト	事前記述課題	未来構想レポート
	「持続可能な多様な豊かな社会」を構築するための意欲や「地域創生」への意志などについて記述	シナリオ（近未来のある地域の社会状況）を読み、課題、解決案を検討し、レポートにまとめる

高崎商科大学

探究・ブレインストーミング型

* 総合型

- ブレインストーミングを通じて4つの資質を評価
 - ・ドライバー資質（主体性）
 - ・ラーニング資質（多様性）
 - ・フォロワー資質（協働性）
 - ・クリエイティビティ資質（創造性）

選抜方法

活動報告書・調査書	ブレイン ストーミング プログラム	ペーパー テスト	集団面接
-----------	-------------------------	-------------	------

受験生と学生4名～5名が1グループとなり、当日提示されるテーマについて、ブレインストーミング用のカードを使いながらアイデアを出し合う

立命館アジア太平洋大学

世界を変える人材育成入試

総合型

- 自分なりの「問い」を立て、自分なりの「方法」で、自分なりの「答え（最適解）」を見つける力（探究型の資質や能力）を評価
- 探究のプロセスを図解した**ロジカル・フラワー・チャート**と、筆記試験解答のポイントを公開

選考方法

第一次選考	出願書類	筆記試験
第二次選考	個人面接（口頭試問含む）	

・与えられた資料から、自分なりの「問い」を立て、自分なりの答え（仮説）を設定し解答（※）
※ロジカル・フラワー・チャートを活用

Part 3

取り組み事例

探究による“気づき”の掛け合わせが 進路選択にポジティブに影響する

京都市立堀川高等学校



Point

- ✓ 探究基礎で自分自身の興味・関心を広げ、深掘りし、理数探究基礎で「型」を学ぶ
- ✓ “探究”が共通言語となり、学校のすべての活動を“探究”的に取り組む
- ✓ 本物に触れるさまざまな機会が生徒への刺激となる

探究基礎・理数探究基礎の3年間の流れ

京都市立堀川高等学校は、1999年に人間探究科、自然探究科が設置されて以来、実に20年以上、探究活動の取り組みを行っている。これまでの積み重ねをベースとして、2022年度入学者（現在の高校1年生）から、探究基礎（総合的な探究の時間）と理数探究基礎の進め方を<図1>のように改定した。現在、1年生による取り組みが始まったばかりだが、次のような3年間の流れになる。

入学直後には、「探究 DIVE」として、2日間をかけた入門的なプログラムがあり、与えられた課題にグループで取り組む。そして、1年生前期はホームルーム単位で「探究基礎 HOP」に取り組む。「探究基礎 HOP」は、自分自身の問題認識や興味を深める期間と位置づけられている。本当に自分の興味があるものは何かについて、とことん自分と向き合うことを重要視している。研究部長の濱田悟先生は「『探究基礎 HOP』では、探究を愉しんでもらいたい。突き詰めて考えていくと最初に課題だと考えていたことが、簡単に答えが見つかってしまったり、逆に答えが見つかりそうになかったりして、少しずつ変化していきます。課題設定の苦しいところもありますが、むしろそれを愉しめるような生徒を育てたいと考えています」と話す。探究に向かう気持ちや心構えを養うことを目的としているのだ。

1年生後期になると、ゼミ形式で行う10人ほどの少人数講座に分かれる。言語・文学、人文社会、物理、化学、生物、地学、国際文化、数学、情報科学などさまざ



副校長
中村陸子 先生



研究部長
濱田悟 先生



進路指導主事
滝本梨恵子 先生

な分野の講座があり、各教科の先生方が担当する。そこで、それぞれの分野に特有の研究手法などを学んでいく。これが「探究基礎 STEP」だ。

こうして、個人研究を進めるための基礎を固めた後、2年生前期は各自が設定した研究課題に向き合い、個人で研究を進める「探究基礎 JUMP」となる<図2>。研究は、前期の半年で一区切りを付けることとしており、全員がポスターセッションを行い、学校内外の人からのアドバイスを得て再考・修正も行い、最終的に、論文という形で研究成果をアウトプットする。

当然、前期だけでは、生徒が当初考えていたような研究成果が得られない場合もある。そのため、2年生後期は、「Academic Project」として、「探究基礎 JUMP」での個人研究をさらに突き詰めたり、ゼミの枠を超えて新たなグループを作り、グループで研究を行ったり、あるいは、サポーターとして1年生のゼミで後輩の指導をサポートしたり、後輩と一緒に考えることで自分自身の学びを振り返ったりするなど、生徒個人の目標によって選

図1 探究基礎・理数探究基礎の流れ

探究基礎（総合的な探究の時間）・理数探究基礎の流れ

択できるようにすることを計画している。

3年生になると「Academic Project Advanced」となり、さらに発展的な研究に取り組むことになるが、選択科目となるため、人数は限られると想定している。濱田先生は「2年生の11月までにきちんとした研究計画を立てることができ、意欲を持って取り組める生徒がいれば、学校としてしっかりとサポートしたい」と話す。



（学校案内より）

改定の目的は、課題設定に向き合う時間の確保

2022年度入学者から改定されたところは、2年生後期以降も探究基礎を授業時間に組み込んだことと理数探究基礎が加わったことである。従来は2年生前期までで授業としては終了していたが、前述のように授業内で研究を続けられるようにした。そのため、単位数も増えている。探究基礎は、1年生で2単位、2年生で2単位、3年生で1単位となっており、これに1年生の理数探究基礎の1単位が加わっている。

新たに加わった理数探究基礎は、文系理系を問わずすべての生徒が履修する。ここでは課題設定、仮説導出、調査研究、結論・発表という探究の進め方、いわば型を学ぶ。従来、この型は、「探究基礎 HOP」で行われていたものだ。この改定の目的について濱田先生は「今までは、HOPの部分で論文の書き方、発表の仕方などの形式的な内容をしっかり押さえるようにしていましたが、中には無意識のうちに型にはまるような課題を選んだり、小さくまとまってしまう生徒も見受けられました。そこで、一旦、型から離れて、自分の課題を自由にかつしっかりと考えるところから探究に入ろうというの

図2 21期生「探究基礎 JUMP」論文テーマ例

- なぜ東大は女子2割の壁を越えられないのか —社会に潜在する価値観から考える—
- 裏メロディーによる曲の印象変化
- 村上春樹『ノルウェイの森』に彷徨う「死」とは何か —主人公の死生観はどう変化したか—
- 天然抗がん物質IP6が植物の成長に示す効果
- 機械学習を用いた映画賞受賞作の推測 —SVMを用いて—
- 葉酸を用いた一重項酸素の検出法の検討
- 空間及び曲面における領域の彩色 —オイラーの多面体定理を用いて—

がコンセプトです」と説明する。これが前述の探究を愉しむことにつながる。

こうした改善の取り組みは、生徒も行っている。堀川高校には「探究基礎委員会」という生徒主体の組織があり、そこで生徒たちが、毎年の振り返りに加え、さらに改善した方が良い点などについて、次年度に引き継ぐことを行っている。

また、「探究基礎 JUMP」終了後は論文集ではなく、「探究基礎で自分は何を学んだのか」「自分にとって探究とは」といったことを一人ひとりが記述したものをまとめた冊

子「探究基礎活動録」を探究基礎委員会が中心となって作っており、生徒たちは自身の研究に取り組むだけでなく、探究の意義についてメタな視点で振り返っている。

生徒と先生の共通理解が進路選択にも好影響

探究活動と進路選択とのつながりについて、進路指導主事の滝本梨恵子先生は「興味・関心がそのまま進路選択につながる場合もありますが、研究テーマに違う角度からのアプローチで気づいたり、思うような成果が得られず悔しく思ったこと、失敗したこと、それらを糧にしたりしながら、自分の進路選択につなげていきます」と情報工学に進んだ生徒の例を話してくれた。この生徒は、数学ゼミで自身の興味・関心に従って学ぼうと、高校数学では習わない「群論」という分野にたどり着いた。ただ、研究発表までの限られた期間では、「群論」について学ぶだけで精一杯だった。そこまでで終わってしまった悔しさをエネルギーに換え、大学では自身の理解のその先をめざすことを目標として、総合型選抜で進路を決定した。

こうした高校での学習内容を超えることは探究の特徴でもある。濱田先生も「物理ゼミでは、授業で物理基礎を履修する前にゼミで学びます。教科書の内容を先取りすることはもちろんですが、必要に応じて、教科書に載っていないことや物理学以外の勉強をすることも求められます。そのため、生徒たちの発想もかなり自由です。教科の授業では教科書がありますが、探究基礎はそれに比べて自由度が高いです」と話す。そのため、中にはかなり思い切った研究課題を出してくる生徒もいるそうだ。また、授業とは異なり、ゼミの場合は、物理が好きな生徒だけが集まっているので、周囲の生徒との相乗効果によって力がより発揮されやすい環境にあり、生徒は自分の興味・関心、さらには進路についての意識が深まることもあるといえるだろう。

堀川高校では、毎年4月の授業開始前に教職員全員が参加する「探究基礎研修会」を行っている。その場で、「探究」の意味——自ら課題を見出し、答えが用意されていない中でも試行錯誤を繰り返しながら、なんとか道を見出して課題の解決を図ろうとすること——を共通理解し、その年の重点を共有している。滝本先生は「生徒たちも探究基礎の授業に全員が取り組むので、そこで学

ぶ探究の進め方が“探究”的なことだという共通理解があります。そのため、学校行事や進路選択あるいは部活動など何かを探究的に進めるという話になった時でも、生徒も先生も同じ事を指して話ができます」と探究が校内で共通言語化しているという。

そのため、探究基礎で取り組む課題などが、生徒との会話の契機にもなる。滝本先生は「生徒はテーマに誇りをもって取り組んでいるので、あなたのテーマは何ですか？と聞いた時に話に詰まる生徒はいません」と話し、濱田先生も「個人研究でどのようなテーマに取り組んでいるのか、いたのかというのは、担任と生徒の面談などでも定番で重要な話題です」と話す。探究を中心にしてコミュニケーションの質が一気に深まることで、生徒自身の興味・関心や進路に対する本音や迷いに迫る、実のある進路面談につながっているのではないだろうか。

学校活動のあらゆる場に組み込まれた“探究”

堀川高校では、生徒の視野を広げるため、年に数回、講演会を実施している。講師は研究者のほか「生徒が少し遠い未来を見ることができるよう、社会で活躍されている方々に講師をお願いしています。生徒が文理選択を考える際でも、これまでの枠を飛び越えて考えてほしいという思いを持っています」と滝本先生は話し、「探究を進めていくと生徒たちは自分の研究テーマに深く狭く入っていきます。そこで、考え方や視野をもっと広げる事を意識しています」と講演会の位置づけを説明する。この講演会が生徒の進路選択に影響した例として、滝本先生は農学の分野に進んだ生徒の例を次のように語る。「もともとは弟の足の臭いが気になり、臭いの元となる菌の研究のために生物化学ゼミに入り、どうすれば滅菌できるかという研究・発表を行っていました。あるとき、教員からノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智先生の話を知っていたこともあったのでしょうか。1年次、講演会で海外に目を向けた支援活動の話を知っており、その生徒の中で微生物と薬と海外支援などが3年間で掛け合わされて進路選択に至りました」

上記は、3年間でさまざまな刺激を受け、生徒自身の中で進路選択に対する思いが醸成された例といえるだろう。また、講演会ではないが、研究員からの問いかけによって「スイッチが入った瞬間」に立ち会ったこともあ

るそうだ。医学部志望の生徒が、研究員に生物ゼミでの活動について話をしたところ、その研究員は、生徒が個体識別のために生体にマークを施したことについて、「マーキングによって生死につながるような生体への影響はなかったのか」と尋ねた。その時、その生徒は医学とは何かを強く自覚し、医学部で学びたいという気持ちを強くしたという。このようなさまざまな刺激を得る機会が校内で設けられていることも、探究活動と進路選択がつながるポイントではないだろうか。

滝本先生も「どの働きかけが生徒にヒットするかはわかりません。その時は何も感じなくても実は後からじわりと効果が現れるものもあります」と話す。さらに、講演会については、生徒も先生も同じ話を聞いているため、共通の話題となり、生徒にアドバイスをする際にも生徒の考えを掘り起こす指導がしやすいという。これも校内における探究の共通言語化の1つといえるだろう。このほかにも、濱田先生は、大学院生によるTA（ティーチング・アシスタント）の存在をあげる。「TAがゼミに入ってくれるため、生徒は年齢の近い大学院生と話すことで研究の具体的なイメージがつかめますし、研究に取り組む姿への憧れを持つこともあるでしょう」とロールモデルの効果を指摘する。TAについては費用の面でSSHや民間の研究指定を活用するとともに、京都市教育委員会の支援も受けているそうだが、「本校は、京都という大学生が多い環境にあるため、恵まれていると思います」（濱田先生）と地の利を生かした仕組みだといえる。

生徒の可能性と生徒同士の学びを信じて“待つ”

副校長の中村陸子先生によると、堀川高校には、「二兎を追う」ということばがあるという。二兎とは日々の学習と探究活動だ。中村先生は「日々の学習は、授業を柱とする教科学習です。探究活動は探究基礎を代表としていますが、本校では探究的に行う委員会活動や部活動なども探究活動の1つです」と話し、学校行事や特別活動などもすべてが探究活動として位置づけられているとのことだ。そして、「生徒には、その二兎とも追って、二兎とも得よう、と言っていますが、生徒も教員も、結局は一兎だという気づきに到ります」と探究基礎などで取り組んできた、探究的な思考や進め方などは、教科学習に生かされ、大学進学後はもちろん、「一生、学び続け

る学習者」としての長い人生に生きると考えられている。

ただ、中には思うように探究活動が進まない生徒もあるだろう。このような場合はどうやって生徒を支えているのだろうか。濱田先生は「待つことです」と話す。

「本人から“知りたい”というものが出てこないとアドバイスのしようもありません。それを待ちます。また、生徒同士で話をさせてみることできっかけがつかめることも結構あります」と、堀川高校でいう「朋とともに学ぶ」ことが良い影響を与えているという。「探究に関しては、生徒を導くのではなく、生徒と一緒に考えるというスタンスです」と生徒の自立を促すスタイルだ。中村先生も「教科指導でも、本校の先生方には“待つ”という言葉が本当に的確な表現になると思います。教員は適切な仕掛けを提供したり、目線を上げさせるようなことばかけを行ったりはしながら、生徒の可能性や生徒同士の学び合いを信じて待つことで生徒を支えていきたいと思っています」と語る。

最後に、探究活動を進路選択につなげるポイントについて、濱田先生は「本物に触れる機会を大事にしています。最先端で本当の未知と戦っているような人たちが、どんなことを考えて取り組んでいるのか。そこで生徒は専門分野以外の幅広い知識の必要性を感じることもあるでしょう。そういうさまざまな刺激が生徒に刺さるのだらうと思います」と話し、学外の専門家や卒業生などとの出会いの機会によって、想定していない多様な意見が刺激となり、生徒が立ち止まって考えることが大切ではないかと指摘する。それに加えて、滝本先生は「生徒には、失敗を含め、自分が決めたテーマに真摯に取り組み、やり遂げたという誇りを持ってほしい」と話し、失敗やタイムアップも含め、探究を通して生徒が自立していくプロセスが重要であるとの思いを語ってくれた。

京都市立堀川高等学校

◇所在地：京都市中京区東堀川通錦小路上ル四坊堀川町622-2

◇創立：1948（昭和23）年

◇卒業生数：2022年3月卒業生245名

◇卒業生の進路：国公立大116名／私立大38名／専門学校1名／その他90名

将来の学びとその背景にある社会課題を意識し 本当に進みたい学問領域をめざす姿勢を後押し

大阪府立四條畷高等学校

教頭 森佳之 先生、GL部長 秦有希 先生、探究担当 宮崎元 先生



- ✓ 段階的に探究活動を繰り返すスパイラル式探究プログラムを開発
- ✓ 学問に関連した社会課題を深掘りする「学びの航海図」で将来の学びを考える
- ✓ “気づき”を促し、自身の進路選択の指針となる「自己分析シート」を作成

普通科から文理学科に

SSH指定校としての取り組みを探究活動に還元

大阪府立四條畷高等学校は、2011年度に大阪府の進学指導特色校「グローバルリーダーズハイスクール」に指定され、文理学科を設置した。翌2012年度からは文部科学省のSSHの指定も受け、「社会に貢献できる科学技術系人材を育成する教育システムの開発」という目標の下、さまざまな課題研究活動に取り組んできた。2018年度から文理学科のみの募集となっている。

現在は、GL（グローバルリーダーズ）部がSSH事業・国際交流・探究活動を統括運営しており、SSH指定校として長年培ってきた課題研究活動の取り組みが、学校設定科目「探究チャレンジ」の授業にも還元されている。

「SSHとしての経験が、探究活動にそのまま生かせるのが、本校の強みです。課題研究活動というと、かつては理系の生徒が主役でしたが、年々、文理の別なく生徒みんなが主役になってきているなと感じています」と森佳之教頭は語る。

繰り返し取り組むスパイラル式の学びで 探究活動の「軸となる力」を身につける

同校の探究活動は、＜図表1＞のような「スパイラル（螺旋）を描くイメージ」で3年間のカリキュラムが設計されている。GL部長を務める秦有希先生は、その意図をこう説明する。

「探究活動とは、問いと仮説を立て、実験・検証し、考察していきますが、自分で立てた仮説通りにならない場合も多くあります。じゃあ、もう一回やろう。それでもダメならまたやろうと、繰り返しトライします。本校では、3年間で5期に分け、テーマを変え、段階的に探究活動を繰り返していきます。螺旋階段を上るようにしてステップアップしながら、さまざまな資質や能力を身につけてほしいと考えています」

スパイラル式の学びの概要を整理しておこう。

【プレ探究活動】入学前春休み

プレ探究活動として、「身近な課題を探そう」をテーマに、春休みに身近な問題を見つめさせる。

【1周目】1年次前半／探究チャレンジⅠ

1年次では「エネルギー」というテーマを軸に、「探究とは何か」について学ぶ。夏休みには作成した計画書に基づいて探究活動を体験、研究結果を発表する。1年次2学期には2年生による中間発表会を見学し、探究活動のルールとノウハウを学ぶ。併せて、科学者と技術者の違いを学ぶ講演会なども開催する。

【2周目】1年次後半／探究チャレンジⅠ

2年次前半／探究チャレンジⅡ

1年次3学期には、2年生による成果発表会を見学。その後、2年次の探究チャレンジⅡで取り組んでみたいことについて考える。探究チャレンジⅡでは、興味・関心で結びついたクラスの枠を超えたチーム活動に取り組む。予備調査・実験のプロセスを経て、本調査・実験を

行い、9月には中間発表を校内で行う。

【3周目】2年次後半／探究チャレンジⅡ

チームとしての方向性（科学者コース or 技術者コース）を定め、さらに研究を深化させる。1月には成果発表会を行い、論文の完成をゴールとする。また、外部発表会などでも発表の経験を積む。

【探究活動仕上げ】3年次／探究チャレンジⅢ

これまでの「自分」とこれからの「自分」をテーマに、高校生活を振り返り、将来の学びにつなげる。

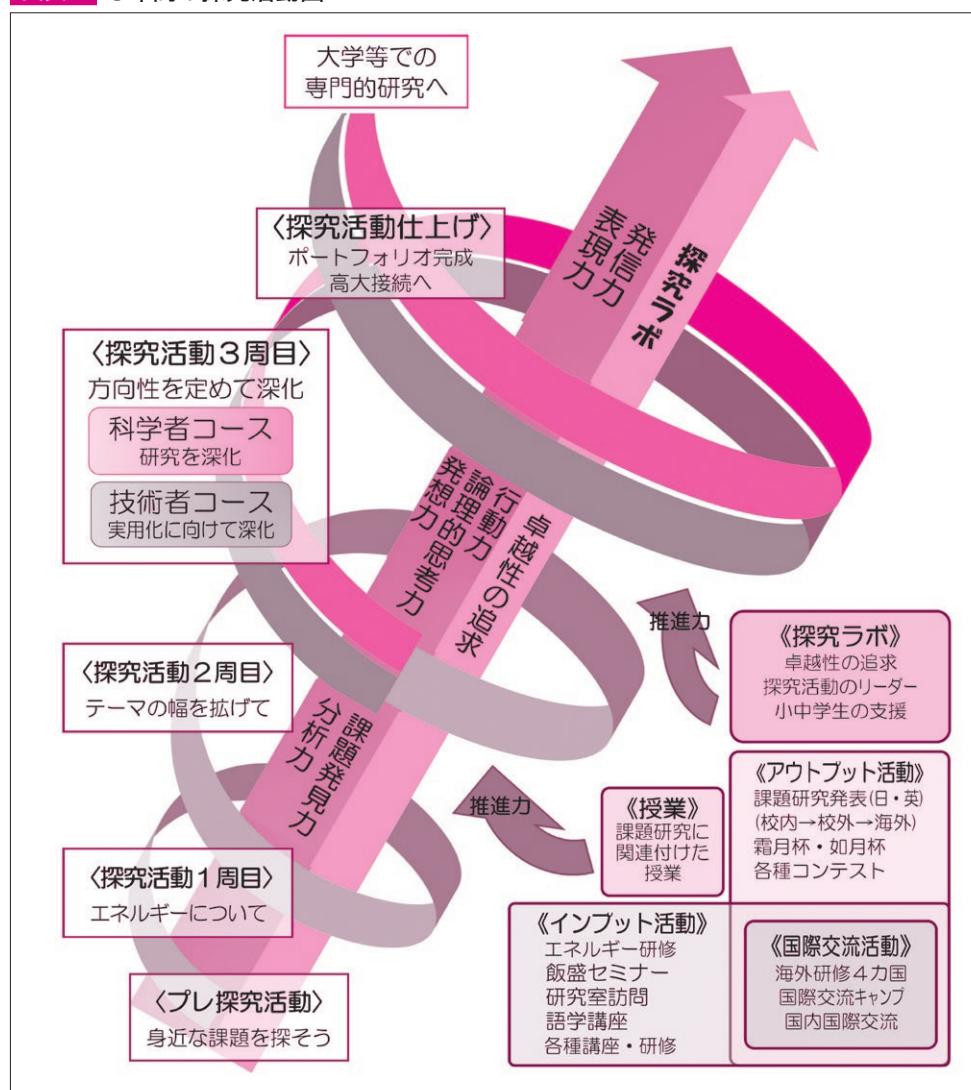
大学で研究する学問領域、将来の学びについて 知識と理解を深める「学びの航海図」

注目したいのは、2年次の春休みまでに論文執筆を終

え、大学受験に対する意識が高まる3年次1学期の授業を、探究学習と進路選択を結びつける取り組みにあてている点だ。そのための仕掛けとして活用しているのが、同校が独自に開発した「学びの航海図」と「自己分析シート」である。具体的にどのような取り組みなのか、探究担当の宮崎元先生にうかがった。

「1・2年次の探究活動を通して、自分の興味・関心のある課題研究に取り組んだ本校の生徒たちが、進路について考えるときに、足りない部分は何か？ それは、大学での学びが何のためにあるのか、学部での研究が社会とどのようにかかわっているのかという認識です。大学での学問はほとんどの場合、世の中の課題解決の糸口を探る目的で行われているわけですから、各学部の研究

図表1 3年間の探究活動図



の背景にある社会課題を深掘りして探究すれば、進路選択に際して志望動機の強化につながるのではないかと考えました。そのためのツールとして『学びの航海図』を用意しました」

「学びの航海図」は、国際・政治・経済・環境、科学・技術・情報・通信、教育・医療・健康・福祉、社会の9分野の中から1つを選び、課題と思われる大きな“問い”を立て、さまざまなキーワードを用いて多角的に調査した内容を1枚のレポートにまとめる。たとえば、「グローバリゼーションとは何か？」という問いに対し、「人・モノ・カネ・情報」「脱グローバル」「グローバル化の功罪」などのキーワードを示し、深掘り調査していくといった方法である。海のように深く広い学問の領域に船出するには、知識・指針・方向性が不可欠だ、という意味が「航海図」という言葉に込められている。

「取り組みやすさを重視し、表現は生徒の得意な方法に任せています。パワーポイントなどを用いる生徒もいれば、イラストや手描き文字で個性豊かなレポートに仕上げる生徒もいます。やってみると、想定していたよりもはるかに面白いレポートが続出し、生徒たちのポテンシャルの高さに驚かされました。実施後に行ったアンケート調査でも、〈今までは志望学部を漠然と決めていた程度だったけれど、『学びの航海図』の作成を機に大学で学ぶ意味について深く考えるようになり、進みたい学科まで決まった〉といったポジティブな回答も寄せられました。

自分の高校生活を子細に振り返り

1枚の図にまとめる「自己分析シート」

もう一方の「自己分析シート」＜図表2＞は、自分自身の課題を探る取り組みである。同校で過ごした3年間

図表2 自己分析シート

3年 探究チャレンジⅢ 「高校生活を1枚の図にまとめよう」

この授業では「自分の高校生活」を振り返りながら、まとめていく活動を行います。
過去のインプット活動・アウトプット活動を参考に「自分の高校生活」を思い出していこう。

3年 組 番 氏名

<入学前>

小・中学時代の自分

<1年>

がんばったこと

影響を与えられたもの・人

もう少し努力できたこと

失敗したこと

自ら参加した行事

学んだこと
ついた力

<2年>

がんばったこと

影響を与えられたもの・人

もう少し努力できたこと

失敗したこと

自ら参加した行事

学んだこと
ついた力

<3年>

強み

今の自分

弱み

つけない力

<卒業後>

学びたいこと
習得したい技能

やりたいこと

<10年後>

なりたい人物像

<高校生活自分の柱となったもの>

3年で「つけない力」のために具体的に取り組むこと

探究チャレンジⅠ 夏の探究活動

①テーマ

②成果・気づき

探究チャレンジⅡ 探究活動

①動機

②テーマ

③成果・気づき

四條畷高校HP (<https://www.osaka-c.ed.jp/shijonawate/html/tankyu.html>) よりダウンロードできる。

を振り返り、自己分析も加えながら1枚の図にまとめていく。高校3年間の活動やそこで得たことをアウトプットするものだが、卒業後に「学びたいこと・習得したい技能」や10年後に「なりたい人物像」を書き込む欄があるのも興味深い。

「これまで学んできて、自分はどんなことに本当に興味があるのか、何が足りていないのか、自己を深掘りすることで、さまざまな“気づき”を促したいという狙いがあります。自分で考えて記入するだけでなく、グループ内で“客観的な自分像”を聞き出すインタビュー形式も取り入れており、本人は気づかない“自分の強み”が見つかるケースもあります。そのうえで、大学で学びたいことや、さらに10年先の自分を想像して言語化していくことで、『ああそうか。学ぶということは、目前に迫った大学受験を突破するためのものではないんだな』と実感する生徒も多いようです」(宮崎先生)

そうした自己についての“気づき”を進路を考えるきっかけにしてほしい。そう指摘するのは、秦先生だ。

「一般的に、自分の取り組みを思い起こして言語化するのは、非常に難しいと思います。実際、3年間の学びを振り返ったとき、『思いつかない』『うまくまとめられない』と生徒はさまざまな思いを持ちます。しかし、今の自己に気づくことが卒業後の進路を考えるスタートの1つになると思っています。本校の探究活動では、発信力が身につくようにアウトプットの機会を多く設けています。生徒たちがその経験を生かして言語化していくことができるよう、教員がサポートしながら、取り組みを進めています。高校生活における体験の積み重ねを言語化していく『自己分析シート』を通して、自分がこれまでやってきたことだけでなく、これからやっていきたいことが“可視化”され、それが自分の将来につながる学びや、本当に進みたい道への“思い”を強める推進力になっていると思います」

探究で身につけた粘り強く学ぶ姿勢によって 結果的に進学実績も向上

3年次に作成する「学びの航海図」と「自己分析シート」は、同校における探究活動の総仕上げであり、将来の学びと将来の自分像をすり合わせて進路を考える最終プロセスでもある。探究を進路選択につなげる、こうし

た工夫はいかにして生まれたのか。

「最初から探究と進路を抱き合わせて考えていたわけではなく、探究活動を通して身につく力や“気づき”がきっかけとなり、結果的に生徒の進路選択につながったと思います。3年次の探究チャレンジⅢのオリエンテーションの際も、進路選択という言葉はあえて使わず、『高校の学びと大学の学び、違いはどこにあるのか?』をトリガークエスチョンにしています。その答えを生徒各自で導き出すツールが、『学びの航海図』であり『自己分析シート』です。そして、これも結果的にですが、これらの成果物が進路指導に役立っています」(宮崎先生)

「学びの航海図」は、担任が生徒と進路希望の話をする際の資料として役立つ。また、「自己分析シート」は、学校推薦型選抜の自己推薦文を練習する格好の素材となる。森教頭によれば、実際に探究活動の成果が同校の進学実績の向上にもつながっているという。

「全校を挙げて探究学習に取り組むようになって以来、国公立大学の学校推薦型選抜を受ける生徒が増え、合格率も年々高くなっています。当初は本校でも、探究活動に割く時間を座学にあてたほうがよいのではないかと、いった声もありましたが、先見の明のある教員たちが、これからの社会で役立つ力を身につけるために、探究活動は重要なだと説得し、GL部が牽引する現在の体制が生まれました。トライ＆エラーを繰り返す探究活動にチャレンジすることで、粘り強く学ぶ姿勢や、成功するには何がポイントか、そのノウハウを自ら発見する力が身につきます。その結果、学力も順調に伸びていくことを、生徒たちが実証してくれています」(森教頭)

生徒の10年先を見据えての取り組みが、どのような着地点を見せるのか。今後は卒業生の動向なども調査しながら、探究活動のさらなる拡充を進めていく方針だ。

大阪府立四條畷高等学校

◇所在地：大阪府四條畷市雁屋北町1-1

◇創立：1903(明治36)年

◇卒業生数：2022年3月卒業生356名

◇卒業生の進路：国公立大161名／私立大120名／専門学校3名／その他72名

サイエンスに対する好奇心と研究意欲を 広げ深める機会を提供し、将来につなげる

山梨県立甲府南高等学校



Point

- ✓ サイエンスに関連する多種多様な機会を設け好奇心を育てる
- ✓ 純粋な興味・関心で研究テーマや講座を選択
- ✓ もっと究めたい生徒向けのプログラムも充実

SSHの探究活動で、1年生は実験の基礎習得 2年生は研究、3年生はまとめに取り組む

山梨県立甲府南高等学校は、普通科5クラスと理数科1クラスを置き、毎年国公立大学に多くの合格者を出す進学校である。2004年度から5期連続でSSHに指定され、2022年度からは先導的改革型の指定を受けるSSHの老舗だ。

同校では、校訓の「開拓者精神」をもとに、SSHの目標に「新たな価値を創生し、未来を切り拓くフロンティアスピリット～持続可能な科学技術人材育成システムの構築～」を掲げ、多様な理数教育を展開している。その中心となるのが、SSH学校設定科目「フロンティア探究」である。

「フロンティア探究」は、1年生は研究の基礎づくり、2年生は研究の深化・向上、3年生は研究のまとめという流れである<図表1>。1年生では全ての生徒が、グループで物理、生物、化学の基本的な実験手法と統計処理、情報活用の方法を学ぶ。実験のテーマは、実験手法を習得するのに適したものを学校が設定するが、グループで温度や濃度、電圧を変えるとといったアレンジは加えている。1期目の指定以来、同校のSSHプログラムを牽引してきたSSH推進部主任の雨宮祐二先生は、「文理選択で2年次から文系に進む生徒もありますが、統計処理や情報活用の方法は文理を問わず必要ですし、研究テーマに対する科学的なアプローチの方法はどのような分野においても生きてきます」と話す。

2年生では、身近な事象や科学的現象、SDGsの目標

などから研究するテーマを設定し、グループで探究活動を行う。グループ活動ではあるが、研究テーマが近い生徒同士でグルー



篠原茂樹 校長



SSH推進部主任
雨宮祐二 先生

プをつくり、話し合っグループの研究テーマを決めている。研究は、文系の生徒が理系、理系の生徒が文系のテーマでもよく、文理融合の研究テーマでもよい。また、テーマはオリジナルでもよいし、先輩のこれまでの研究を参考にしたり、発展させたりしたものでもよい。ちなみに同校は過去19年間約700の研究のテーマと要旨のデータベースを整備しており、生徒は参照しながら研究テーマを検討することができる。

「研究は高度なものを求めているわけではなく、テーマ設定、仮説立案、実験による検証、考察、まとめ、プレゼンテーションという一連の流れを経験することを重視しています」（雨宮先生）

ちなみに1グループは3～4名で、1クラスに対し、全教科の教員が5名つく体制で生徒の研究のサポートやルーブリックによる評価、発表指導などを行っている。3年生の探究活動は実質1学期のみとなるため、2年で行った研究について、英語の教員に添削してもらいながら英語で300字程度の要旨を作成し、さらにグループでまとめる。続いて個人で2,000字～3,000字の論文を執筆する。

図表1 「フロンティア探究」3年間の流れ



高度な研究に体験的に触れる講座や 先端研究の講演で、科学への興味を喚起

そのほかに、生徒の好奇心をくすぐるさまざまな講座が用意されている。校外研修を中心としたテーマ別集中講座の「フロンティア講座」、一流の研究者による講演会の「サイエンスフォーラム」だ。

「フロンティア講座」は、研究機関や県内の企業の協力を得て、例年6月～11月に＜図表2＞のような講座を実施している。

「2021年度はコロナ禍のためオンラインで行いましたが、例年は実習や宿泊をとまなうものもあります。1年生の講座は体験的なものですが、2年生の講座では大学レベルの実験に触れることができるものもあります。生徒たちは純粋に興味のある講座を希望しており、毎年1年生はJAXA講座、2年生はスーパーカミオカンデを訪問する神岡研修講座が、『1度行ってみたい』と人気です。ニュートリノの研究内容を理解できなかったとしても、最先端研究の現場の空気に触れることは、生徒の研

究意欲向上につながりますし、本物の研究を知る機会となります。この『フロンティア講座』が探究活動のアイデアにつながる生徒もいます」（雨宮先生）

そして、「サイエンスフォーラム」では、一流の研究者の講演を聴くことで、自然科学に対する興味・関心を高めることを狙いとしている。2021年度は、国立感染症研究所の長谷川秀樹センター長による『新型コロナウイルスとワクチン』の講演や、同校OBの久里浜医療センターの樋口進院長による『ゲーム依存－現状と病気として認められたプロセス』の講演を実施した。

近年は、卒業生のうち、大学研究機関等の研究者や大学院生・大学学部生を「南高SSアカデミー」として組織化している。会員は70名を超え、「フロンティア講座」の講師や「サイエンスフォーラム」の講演に加えて、SSHのあらゆる場面で指導を依頼している。たとえば、「フロンティア探究」の授業で、実験器具の基本的な使い方を学ぶ際には、TA（ティーチング・アシスタント）として現役大学生の卒業生が20～30名も来校してくれた。卒業生は、探究活動の支援だけでなく、自分が高校

図表2 フロンティア講座 2021年度実施講座一覧

1年生 全員必修受講			2年生 理数科・理ク	必修受講	
			2年生 普通科	希望者受講	
	講座名	定員数		講座名	定員数
(A)	ロボット講座	40名	(H)	臨海実習講座	12名
(B)	JAXA講座	40名	(I)	神岡研修講座	30名
(C)	生物講座	40名	(J)	山梨大学医学部講座	20名
(D)	電子顕微鏡講座	25名	(K)	DNA講座	20名
(E)	プログラミング講座	40名	(L)	ワイン講座	15名
(F)	太陽光ソーラーパネル講座	40名	(M)	先端技術講座	30名
(G)	国際環境講座	40名			

時代に取り組んだ探究活動の内容や、その経験がその後どう生きたかなどを話してくれるという。雨宮先生は「卒業生が現在の生徒に還元してくれるサイクルが生まれたのが、長年SSHとして取り組んできた成果です」と話し、卒業生からは「SSHの全てが糧になっている」「後輩への協力に力を惜しまない」など、温かい言葉が寄せられているようだ。

教員によるサイエンスの視点を入れた講義 自然科学系クラブと、興味を広げ深める場を提供

さらに、科学的素養を高める取り組みとして、各教科の中で教科横断的に科学を学ぶ「科学の世界」と題する授業も実施している。題材は文系からも理系からもアプローチ可能な「科学」とし、人間と自然・科学技術とのかかわりについて生徒に考えさせることで、さまざまな視点から科学に向き合う姿勢を育成することをめざしている。全校生徒が対象で、＜図表3＞のほか、これまでは音楽と物理、家庭科と化学の教員がコラボレーションした授業などもあったようだ。

こうした多種多様な取り組みに触発され、自身の興味・関心のある事柄についてもっと深く追究したくなる生徒もいるだろう。こうした生徒に向けては、生徒会の部活動という位置付けでサイエンスワークショップを設置している。これは、自然科学系クラブとして物理宇宙部、物質化学部、生命科学部、数理情報部の4つがあり、約80名の生徒が専門性の高い研究に取り組んでいる。

物理宇宙部だが将来は生命科学を勉強したいという生徒や、兼部している生徒もいる。篠原茂樹校長は、「どの取り組みも、生徒は『文系だからこのテーマ』『医学部志望だからこのテーマ』というように分野を限定せず、純粋な興味・関心で研究テーマや講座を選んでいきます。学校としても、生徒にサイエンスを広く学んでほしいと考えています」と話す。

こうした多様な取り組みの結果、科学コンテストに挑戦する生徒も増え、国際科学技術コンテスト、日本学生科学賞、科学の甲子園、県自然科学研究発表大会などに毎年100名前後の生徒が参加している。

これまで化学グランプリ^(注)大賞を受賞した3名はいずれも東京大に合格している。今までに東京大に推薦で合格した2名のうちの1名は、在校中は生命科学部で活躍するとともに、日本生物学オリンピック^(注)日本代表候補に選出された。他の1名は、化学グランプリで大賞を受賞するとともに、科学の甲子園全国大会に2年連続で出場した生徒だ。高校の理科の選択科目は物理だったが、大学では生命科学を志望し、面接では、高校で行った物理の課題研究についてプレゼンテーションした。大学でタンパク質の研究をしたいという夢をもち、自分で世界的に定評のある生物の教科書『キャンベル生物学』を購入するなどして学んでいたという。

「学校は、サイエンスの面白さを知る機会と、それを追究する場を提供するにすぎません」（篠原校長）
「こうした特別な生徒ばかりではありませんが、探究活動はグループで取り組むので、それ以外の生徒の刺激にもなっています」（雨宮先生）

探究活動をはじめ、あらゆる活動の記録をとじる ポートフォリオを志望理由書などに活用

もうひとつ、同校の探究活動をはじめとする多様な取り組みを支えるツールが、オリジナルのポートフォリオである。生徒一人ひとりがバインダーをもち、3年間を

(注) 化学グランプリ、日本生物学オリンピック…日本全国の高校生以下が化学および生物学の実力を競い合う場。それぞれ、翌年の国際化学オリンピックと国際生物学オリンピックの代表候補選抜も兼ねており、高校1、2年生の中から、代表候補が20名ほど選出される。

図表3 科学の世界 2021年度実施例(抜粋)

教科・科目	概要
国語	賢治の詩と科学 賢治の詩には科学用語がよく使われている。それらの科学的な意味を確認した上で、詩の中でどのような意味を持っているのかを考えてみたい。科学と芸術という一見関係性の薄い二つのものがどう結びつくかを考えることによって、より深い詩の鑑賞につながればよいと思う。
地歴公民 (世界史)	パンデミックと世界史 未だ続く新型コロナウイルスの感染拡大、かつて人々はパンデミックにどう向き合い、その後どのような価値観の変化が起きたのかを考察する。
保健体育 (体育)	サッカーボールの蹴る位置でボールの軌道がどう変わるか? 4人1組で助走の距離や蹴る力を一定に保つために同じ人がボールを蹴る。ボールの蹴る位置を変えるとボールの軌道がどう変わるかを実験・実証する。残りの生徒が後ろや横から動画を撮影して検証する。また蹴る位置とボールの距離の関係性についても考える。

通して、探究活動の話し合いや実験の記録をとじていく。研究テーマの決め方や先輩の研究例などの資料を「課題研究データベース」を利用して自由に閲覧できるとともに、ポートフォリオを見ればいつでも参照できるようになっている。

ポートフォリオには、ほかに「フロンティア講座」や「サイエンスフォーラム」の記録や感

想、参加したコンテストの研究内容、ボランティアや部活動など、多様な活動の記録を何でもとじていく。「これからしてみたい研究」や「活動を通じて自分がどのように変わったか」を記入するシートもある。「毎回授業に持参させていますが、どのシートも、いつ、これを記入しなければならないという制約はなく、生徒には自由に使ってもらっています」(雨宮先生)

3年生では、ポートフォリオを通してこれまでの活動を振り返り、入試の資料として活用する。「総合型選抜や学校推薦型選抜はもちろん、一般選抜でも高校での活動や志望理由、入学後に学びたい内容を書くことを求める大学が増えています。資料がないと記述は抽象的になりがちですが、ポートフォリオがあることで、具体的に書くことができます」(雨宮先生)

SSHの活動が大学で「役立つ」との回答が年々上昇

こうした学校の取り組みに対して、卒業生はどのように感じているのだろうか。2020年度卒業生へのアンケートでは、SSH事業を体験してよかったことについて、次のような感想があった。

- ・個人では体験しにくいことを学校が行ってくれてよかった。
- ・コロナで難しいと思うが、さまざまなジャンルの研究施設を訪問することは、興味が広がるきっかけになりいいと思う。
- ・ただ教科書の内容をなぞるだけではなく、自分で考えて行動する機会があること。
- ・課題研究は大学生活においてとても役に立っている。どのような流れで研究から発表までを行うかを経験で

きたのがよかった。

卒業生アンケートの声からは、卒業生にとっても同校での取り組みが進路選択や進学後の学びにつながっていることが感じられる。こうした手ごたえは同校の教員に対するアンケートにおいても同様で、9割以上の教員が、「生徒の取り組みが、進路選択につながるものになっている」と回答している。実際に、国立大理系の総合型選抜や学校推薦型選抜においても、毎年30～45名程度が合格している。

さらに、2006年から2013年卒業生に対する大規模アンケートによると、卒業生の現況として、約25%が「研究職・技術職(大学・企業・公務員等)」だった。「探究活動などSSHの経験が、大学や社会に出てからという長いスパンで役立っていることがわかります」(篠原校長)

5期連続でSSHの指定を受けているのは、同校を含め全国で8校のみ。同校が卒業生との連携やこれまで培った企業や研究機関との信頼関係をもとに、今後、より一層生徒の探究意欲を高め、未来を切り拓く力をつけていくのが楽しみだ。

山梨県立甲府南高等学校

◇所在地: 山梨県甲府市中小河原町222番地

◇創立: 1963(昭和38)年

◇卒業生数: 2022年3月卒業生258名

◇卒業生の進路: 国公立大81名/私立大110名/短大4名/専門学校7名/就職2名/その他34名

「自分のミライを描く」を合い言葉に 自律的な進路選択を促す探究プログラムを構築

札幌市立札幌藻岩高等学校



- ✓ 実体験の積み重ねを通して社会に目を向ける
- ✓ 地域の魅力を知り、課題解決に向けたアイデアを共創
- ✓ 探究活動は進路選択を促すきっかけの場に

未来をデザインする場として

「総合的な探究の時間」を活用する

札幌市立札幌藻岩高等学校は、緑豊かな札幌市南区に立地する普通科高校である。育てたい生徒像として「未来に向けて新たな価値を共創する人物」を掲げ、これからの社会を生き抜く5つの力（ことばの力・考える力・試そうとする力・想い浮かべる力・やり抜く力）を「MOIWA 5Bs」と定義し＜図表1＞、探究活動に力を入れてきた。

「本校では、『総合的な探究の時間』を生徒一人ひとりの自律的な進路選択を促す場として位置づけています。大学進学がゴールではなく、その先にある自分の未来を描く力を3年間でどのように育て、実際の進路選択にどうつなげていくか。3年生の段階で『ミライdesign』、すなわち自分の未来の生き方をデザインできるように、年次ごとに入念なステップを踏んでいくプログラムを練り上げていきました＜図表2＞」

そう語るのは、3学年の探究委員を兼任する進路指導主事の佐々木佑季先生だ。同校の探究活動の特色である「ミライdesign」に向けて、具体的にどのような学びのプロセスを準備しているのだろうか。探究計画部長を務める千葉建二先生の解説をはさみながら、3年間の流れを見ていこう。

実体験を通して社会を知り

探究の基礎を固める3つのプロセス

まず、1年次では、実体験を通して社会に目を向ける。



進路指導主事
佐々木佑季 先生



探究計画部長
千葉建二 先生

北海道を代表する観光地、ニセコの魅力を知る、オリジナルのコース別研修を用意した2日間のニセコスタディーツアーがその登竜門である。アクティビティ、温泉、オーガニックワイン造り、未来の山村づくりなど、各ジャンルで活躍するニセコの人々との対話や体験ツアーによる楽しい学びだ。

2つ目の取り組みは、1年次の探究活動の柱である「探究人インタビュー」だ。

「探究人とは、キラキラした輝きを放ち、よりよい社会をめざして活躍されている大人たちを意味します。北海道大学の教授、クリエイティブディレクター、絵師、元NHKニュースキャスター、喫茶店経営者など、多様なジャンルから、大人になっても挑戦し、探究し続けている方たちにスポットを当て、生徒たちがインタビューする活動です」（千葉先生）

3つ目の「グローバル概論」では、サステナブルな仕事に取り組んでいる探究人にインタビューを行う。これにより、SDGsのレンズを通して世界や地域の課題を発見する訓練を積んでいく。

図表1 MOIWA 5Bs



地域を学びのフィールドにして 「リサーチ&アクション」を実践する

2年次の「総合的な探究の時間」では、同校で2017年度から実施されてきた「南区探究MSP」（以下、MSP）と呼ばれるフィールドワークが中心となる。MSPのMは「藻岩・南区」、Sは「笑顔（Smile）・持続可能（Sustainable）」、Pは「計画（Project）・人々が集まる場（Platform）」の頭文字であり、「藻岩高校のある南区が笑顔あふれる街であり続けるために、高校生ができることを考え、持続可能なまちづくりに向けて、リサーチとアクションを行う活動」という意味が込められている。

「フィールドワークは、学年単位で1人または2～5人のグループで行います。MSPでは『社会の一員として、地域の課題解決に向けたアイデアを共創する』というテーマを設けていますが、このプロセスで最も重要な点はお仕着せの活動ではなく、地域の中で自分が本当にチャレンジしたいと思える“マイテーマ”を見つけてもらうことです。やってみたいことが決まっていな生徒には、具体的なビジョンが明確になるまで教員が面談を何度も行ったり、地域の方たちや本校を卒業した社会人を招いてマイテーマ選びの相談会を催したりして、2年生全員がMSPに積極的に楽しく参画できるよう、みっちり時間をかけて指導に当たっています」（千葉先生）

マイテーマは、観光・健康・福祉・自然・環境、子育て・教育、まちづくり、その他、の6つの中から1つを選択する。2021年度の2年生のMSPのうち、地域の人から注目され、特に評判のよかったアクション例をいくつか紹介しよう。

たとえば、札幌市南区にある喫茶店とのコラボレーシ

図表2 総合的な探究の時間 各学年のテーマ

各年次の総合探究のテーマ	
1年次	実体験を通して社会に目を向ける
2年次 前半	社会の一員として、地域の課題解決に向けたアイデアを共創する
2年次 後半	持続可能な社会とそれを担う自己の未来を描き、行動する

ョン企画で、地元の農産物を使ったスイーツを商品開発したグループがある。地域のさつまいも農園で芋掘り体験をして調達した原料を使い、さつまいもパフェを作り、ポスターやラジオで広報活動をしたところ、大人びた喫茶店に新鮮な風が吹いたと評判を呼んだ。

また、南区で近年増え続けているヒグマの出没件数に興味を持ち、ヒグマ対策講座の受講や河川敷の草刈りボランティアなどの活動を通して、「どうすれば若者にヒグマ対策の主体となってもらえるのか」を探究した生徒もいる。たくさんの大人たちと協力して、誰もが参加できるヒグマ対策についてパンフレットを作成したり、草刈り・ゴミ拾いイベントを主催したりすることで、自分たちの活動をPRし、少しでも興味を持ってもらえるよう活動した。

「南区は高齢化が進んでいる地域ということもあり、本校の生徒がフィールドワークで地域に出て行くと、非常に歓迎されるようです。生徒も地域探究を通して地元への愛着が生まれ、地域に貢献したいという気持ちがおのずと芽生えていきます。生徒は地域のファンになり、地域の人々も札幌藻岩高校のファンになる。そんな好循環が生まれているのを肌で感じています」（千葉先生）

そうした地域の人々との緊密なふれあいがきっかけとなり、未来の自分の姿を思い描く「種」ともいえるマイテーマが明確化し、進路選択の方向性が定まっていく生徒が少なくないという。

10年20年先の社会や仕事 自分の生き方を描く「仕事×ミライ図鑑」

3年次（2022年度より2年次後半）の「総合的な探究の時間」に取り組む「ミライdesign」は、進路選択

に最も深くかかわる重要な探究プログラムである。「持続可能な社会と、それを担う自己の未来を描き行動する」という目標達成に向けて、次の3つのステージが用意されている。

◆ステージ①（4～6月）

さまざまな業種・職業別に社会人講話を聞き、興味・関心のある仕事についてリサーチを行う。10年後、20年後の社会の姿（ミライの兆し）を想像し、そこで生きるミライの自分の姿を創造していく。

ワークシートを使い、社会問題とそれを解決するアイデアを書き出す。自分がめざす職業のミライの可能性や働き方などについて考察し、仮説を立てる。

SDGsイシューマップを用いたワークショップを行い、自分の解決したい社会課題は何か、携わりたい仕事とは、など自分との対話を繰り返しながら、最後はSDGsの17のゴールから「My SDGsアイコン」を選び出し、どのように自分が社会に貢献していきたいかを表明する。

◆ステージ②（7～9月）

ステージ①を踏まえ、「仕事×ミライ図鑑」＜図表3＞を作成する。

これまで自分が調べてきた職業や現在の社会問題から想像するミライの兆しを踏まえながら、「My SDGsアイコン」の目標達成に向けて、ミライの社会で自分がどのように生きていきたいかを各自まとめ、それらを集めて図鑑にし、みんなで共有する。

「他の人の発表を聞くと、視点のユニークさ、分析の見事さに刺激を受け、自分も将来のことについてもっと深く考えようと思った」といった、ポジティブな感想が多く聞かれたという。

◆ステージ③（9～12月）

これまでの探究活動を振り返り、活動報告書を作成する。その他、面談・志望理由書作成など、各自の必要に応じて自由な活動に取り組む。

探究活動が育む「ミライを描く力」が 生徒の自律的な進路選択を促す

探究活動を進路選択につなげる際に、同校では何を重要視しているのだろうか。進路指導主事の佐々木先生にうかがった。

「探究活動でいちばん大事にしているのは、本校の育

てたい生徒像を明確にしたうえで、生徒たちに自分の未来を描く力を身につけてもらうことです。そのために、1年次から何段階ものプロセスを経て、社会との接点をできるだけ多く持てるプログラムを用意しています。それでも10年先の人生を思い描くのは容易なことではありません。地域で頑張っている人や、大人になってもチャレンジを続けている人と数多く出会う中で、少しずつ自分軸が確立されていき、最終的に進路選択につながっていくのではないのでしょうか。

もう一つ、大切にしているのは、探究活動に取り組むときのワクワク感です。教員が押しつけるのではなく、教員も迷ったり楽しんだりしながら、生徒一人ひとりの伴走者として、未来を描く後押しをしてあげられるように心掛けています」

そうした積み重ねの上に、同校の探究活動の特色たる「ミライdesign」「仕事×ミライ図鑑」はある。「仕事×ミライ図鑑」は、総合型選抜の面接対策などでも大きな効力を発揮するそうだ。

「面接指導の先生にとって、『仕事×ミライ図鑑』は生徒各自が考えていることや、将来の夢などがひと目でわかる通知表のようなものです。担任・副担任から8名の探究委員会メンバー、面接指導教諭まで、探究活動の成果物を共有し、多様な視点から生徒一人ひとりをサポートできる点も本校の強みかもしれません」（千葉先生）

同校の“風土”として根付きつつある探究活動が、生徒の自律的な進路選択を促すきっかけとなり得ることを、保護者にも十分に理解してもらうことが、目下の課題である。今後は、探究委員会と進路指導の合同企画の立案なども視野に入れ、両者連動のメリットについて内外にアピールしていく考えだ。

札幌市立札幌藻岩高等学校

◇所在地：北海道札幌市南区川沿3条2丁目1番1号

◇創立：1973（昭和48）年

◇卒業者数：2022年3月卒業生314名

◇卒業生の合格実績：国公立大80名／私立大501名／短大15名／専門学校24名／就職5名 ※いずれも延べ人数

図表3 「仕事×ミライ図鑑」作成例

仕事×ミライ図鑑

ミライの「プロダクトデザイナー」について

「プロダクトデザイナー」についての詳細

プロダクトデザイナー(Product-designer)とはありとあらゆる製品をデザインする仕事のことです。
別名:ex.「インハウスデザイナー」(企業内デザイナー)、「制作会社デザイナー」
デザインを平面か立体物かで考えた際、グラフィックとプロダクトに大きく分類できます。そこで、立体物にあたるのがプロダクトデザインです。



この仕事のミライの兆し

プロダクトデザイナーは、経済発展と共に進化してきた職種です。アメリカのサブプライムローン問題(2007年)やリーマンショック(2008年)にも影響を強く受けています。不況だからこそ、商品力を高め、適応していかなければならなかったという背景がありました。

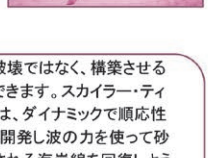
世界の解決すべき課題としてあげられる**地球温暖化**に考慮したデザインが、現状多くの支持を集めています。地球環境を考慮した上に、近年では**コロナ**に対するユニバーサルなデザインが必要になってきていると考えられます。常に経済社会との関係を視野に入れて、社会とともに成長出来るデザイナーを地球が必要としているように思っています。

仮説検証～取材・調査結果～

仮説:デザインが世界を救う。
様々なデザインが考え出されている中、環境に考慮したデザインが多く存在します。デザインは世界を大きくも小さくも変える力があると思います。



例1)世界の何百もの人々、特にアフリカ地方に住む人々は安心出来る、綺麗な水源から何キロも離れたところに住んでいるため、コレラ、赤痢など水が媒介する病気にかかりやすいです。
そこで「Qドラム」というデザインは、平らなところなら子供でも 50Lの水を何キロも無理なく運ぶことができます。



例2)自然の力は破壊ではなく、構築させるために使うことができます。スカイラー・ティビッツの研究所では、ダイナミックで順応性がある水中構造を開発し波の力を使って砂を堆積させ、侵食される海岸線を回復しようとしています。



結果として、少しずつでもたくさんの視点から小さなことを解決することが出来るのがデザインであり、世界を救える可能性を大きく秘めていると思いました。

自分のミライ

My SDGsアイコン

13 気候変動に具体的な対策を



&

10 人や国の不平等をなくそう



My SDGsアイコン設定の理由

13:気候変動に具体的な対策を
これからの求められるデザインは、環境に考慮したデザインが必要です。常に環境破壊を阻止するようなアイデアを考え続けなければなりません。

10:人や国の不平等をなくそう
なぜ、貧困や水不足などのアイコンを選ばずにこのアイコンにしたのか。
自分が今一番としているものは、人の役に立つデザイナーです。人の一つ一つの困難を解決することにより、国の問題も解決できるようなデザインを目指します。人を変えれば国も変わる。



自分はこの2つのデザインを同時に満たす必要があると思います。人を変え、国を変え、かつ環境を変える。人が変われば環境も変わる。国が変われば環境も変わる。そう考えています。

描く自分のミライ

自分の人生の達成目標は、「人に役立つデザイン」です。

あらゆる人に手を差し伸べるデザインを多く考えていき、笑顔の増える世の中を目指していきたくたいです。
そのために、環境問題や、コロナ問題、その時々時代の背景を応じたデザインを考えられるようになります。

具体的に、日本は食べ物の廃棄がとても多い。余った食べ物を、日本の社会復帰を目指して人に提供出来ないのか。いらなくなった服や食べ物、現状アフリカの子供たちにもあげたいのは山々ですが、まずは周りにできることがあるのにしない手は無いです。そのために、第段階として、社会復帰の後押しになるよう、廃棄をする前に一時的に道に置ける冷蔵BOXを作るなどのデザインも面白いと思います。自分は、助けられた人は人を助けるようになると考えています。身近な人から多くの人を助け、その人が他の人を助けることで、段々と規模が拡大していき、最終的に世界を助けることへ繋がると考えています。

意思決定の手法を学びながら進路を探究 自分自身の判断基準をもつことで志望理由も明確に

旭川実業高等学校



- ✓ 高1で進路選択の判断基準をもつ
- ✓ 学問と社会の関係や学問の違いを考える
- ✓ 社会課題の探究を志望理由書作成へつなげる



鈴木雅淑 先生

総合的な探究の時間で自己や社会を理解し 「未来を想像（創造）」

旭川実業高等学校は、普通科、自動車科、機械システム科、商業科の4学科を有する私立高校で、生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばし、希望する進路実現を支援する教育に取り組んでいる。また、普通科は、国公立大学や医学部合格をめざし理数系科目に重点を置いて学習する難関選抜コース、国公立大学合格をめざし文系・理系双方への進学に対応する特別進学コース、多様な進路希望に対応し部活動の充実も図る進学コースの3コースを設置している。

今回は、普通科の難関選抜コースと特別進学コースの

総合的な探究の時間「未来を想像（創造）する」の取り組み内容について、前進路指導部副部長の鈴木雅淑先生にお話をうかがった。

「未来を想像（創造）する」の目標や探究課題は、**<図表1>**の通りである。“自分を見つめる”“社会や地域を見つめる”ということに主眼を置きながらも、国公立大や難関私立大をめざすため、進路や将来に向けた学習に直結するよう工夫している。

職業や大学と学部・学科、SDGsとの関係を 探究しながら、社会や入試で求められる力を育成

「未来を想像（創造）する」の主な学習内容は**<図表2>**の通りである。「職業探究」「進路探究」「社会問題探究」などで構成し、探究した内容を学部・学科選びや志望校選択につなげているのが特徴だ。中でも力を入れているのは、3年次6月の「社会問題探究」である。SDGsの17のゴールから3つを選び、課題を解決するために自分の進路がどのように貢献できるか考え、レポートにまとめて発表する。医師をめざしているのであれば、「すべての人に健康と福祉を」や「安全な水とトイレを世界中に」といったゴールを選んで調べる生徒もいるそうだ。

図表1 総合的な探究の時間の概要（抜粋）

名称	総合的な探究の時間「未来を想像（創造）する」
目標	○自己や社会への理解、地域の課題解決等の教科横断的・総合的な学習や探究的な学習を通じて自ら学び、自ら考え主体的に判断し解決する能力を育成する。 ○主体的かつ協働的な活動を通じて、学びやものの考え方を身につけるとともに、自己のあり方について考える能力を育成する。
内容	探究課題 ①自己と地域・社会との繋がりに応じた課題 ②進路・職業に関する自己実現に向けた課題 探究課題の解決を通して育成をめざす資質・能力 【知識・技能】 教科・科目等に関する専門的な知識・技能 【思考力・判断力・表現力】 多面的・総合的に考える力、批判的に物事を捉える力、コミュニケーション能力 【主体的・協働的に学ぶ力】 積極的に参加し、他者と協力して物事を進める力

図表2 「未来を想像(創造)する」の主な学習内容

学年	時期	分類	学習内容
1年	1学期	職業探究	世の中にある職業と、その職業に関連した学部・学科を調べ、発表
		未来探究	「ミライの選択」に取り組む
	2学期	進路探究	インターンシップを実施
		進路探究	なりたい職業や模擬試験の結果等から文理選択を考える
2年	冬	冬合宿	「時間」のプログラムと「ミライの洞察」を隔年実施
	1～2学期	進路探究	大学や学部・学科、受験方法・受験科目を調べ、志望校を考える
	冬	冬合宿	(1年生と共同で実施)
	6～7月	社会問題探究	SDGsの17のゴールから3つを選び、自分の進路が社会問題の解決にどのようにつながるか考える
3年	8月	進路探究	複数の志望校の受験科目・配点などを調べ、合格までの戦略を練る

「この取り組みは、社会の問題と学問とのつながりを考えさせることを狙いとしています。3年次の6・7月にSDGsを扱うのは、小論文で課す大学があるほか、生徒も志望理由書のテーマとして取り上げやすいからです。

また、我々担任が作成する調査書や推薦書の資料として活用することもできます」

大学での学びや職業がSDGsの解決につながるかを検討することによって、自己と地域・社会との繋がりを意識する機会にもなるだろう。

進路行事や探究活動を進路につなげるために 選択の手法を学ぶプログラムを導入

ここまで紹介したような、自ら進路や職業を考える活動を結びつけ、自走する生徒の育成に一役買っているのが、1年次7月に実施する「ミライの選択」だという。「河合塾未来研究プログラム(ミライ研)^(注1)」の1つで、生徒自らの意思で進路選択を行えるようになることを目的とした、意思決定の方法を学ぶプログラムである。

「本校では、かねてよりキャリア教育として職業ガイダンスや学部・学問ガイダンス、大学ガイダンスなどを実施していましたが、各行事を有機的につなげて進路を考えることができない生徒もいました。また、社会が大きく変化し、大学入試で求められる力も変わる中で、自ら学び、自ら考え主体的に判断し解決する能力を育成することの重要性を感じています。『ミライの選択』を通じて意思決定の方法を学び、高1の間に生徒が自分自身の“ものさし”をもつことで、その後の進路選択や学びへのモチベーションにつながってきていると感じます」

自分自身の判断基準をもとに 興味のある学問を重みづけ

授業では、生徒が学部・学科選びの判断基準をもてる

よう、「総合評価法」を用いたワークを行った。総合評価法は、選択肢が3つ以上ある場合に、多様な基準を同時に扱いながら、選択肢を評価していく方法だ。

手順は<図表3>の通りである。まず、ワークシートの縦軸に興味のある学問を、横軸に学問を選択するための判断基準と重要度を、4つずつ記入する。記入した学問に対して、判断基準をもとに5段階で評価し、その判断基準と重要度を掛け合わせた得点の合計を学問ごとに算出する。ここで最高点の学問が最も納得のできそうな選択肢となるわけだが、ワークシートを俯瞰して、重要度の得点はこれでよいか、点数は事実に基づいているかなど、「突っ込み」を入れていく。生徒は、総合評価法の結果を見て考えたことや、点数をつけた理由、「突っ込み」で気づいたことなどもワークシートのメモ欄に記入する。こうした過程を通じて、生徒は自身が何を大切にしているかが明確になってくるのだ。

「似た基準を列挙している場合は、『他の基準も考えてみよう』などと促して、できるだけ多角的に評価できるようにします。また、重みづけを少し変えて計算させ、総合点が他の学問と大きく離れるようなものがあれば別の学問も試してみるように声をかけて、視野を広げていきます。友達と話したり表を見比べたりしながらワークシートに記入してもよく、対話を通して自分の希望が明確になっていく生徒もいます」

そしてこれらの取り組みの後には、その選択肢や判断基準を選んだ理由や結果をふまえ、どの学問を第一志望にしたか、その理由をまとめて発表する。

たとえば親が医療系の職業であることに影響を受け、

(注1) 河合塾未来研究プログラム(ミライ研) … 「未来」を学びの素材とした、探究型学習プログラム。『ミライの選択』『ミライの洞察』『ミライの科学』がある。
(<https://www.kawaijuku.jp/jp/research/future/>)

狭い選択肢の中で進路を考えていた生徒も、こうした活動を通じて視野を広げ、自分自身の判断基準ができてくるのだ。

さらに、このワークシートは、授業のみならず三者面談でも活用されている。総合評価法のワークシートや発表資料を保護者に示し、生徒自身が自分の判断基準とその進路に進みたい理由などを説明すると、自分の子どもが進路についてこんなにしっかり考えているのかと驚く保護者も多い。そして、高校1年生のうちに判断基準をもっておくことで、文理選択や進路選択にも役立ち、学習意欲にもつながっている。

<図表4>は、ある男子生徒が高1の時に作成した総合評価法のワークシートである。この生徒は当初、漠然

と理系に進みたいと考えていたが、このワークを通じて考えを深め、学問を調べていく中で地球惑星科学という学問にたどりついたそう。そして、単なる学問調べでは終わらず、高2の夏には、JAXAが主催する大樹エアロスペーススクール^(注2)を自ら探して参加し、ロケットや宇宙にかかわる仕事に就きたいという思いを強くした。高3となった現在は、地球惑星科学を学べる大学をめざして受験勉強に励んでいるという。

1、2年生合同のプログラムを通し 日常的な学年を超えた交流が実現

そのほかの特徴的な取り組みとして、冬の合宿がある。コロナ禍で実施できていない年もあったが、冬の合宿は

図表3 「総合評価法」ワークの手順

手順①：選択肢を書く

STEP1 同様、まずあなたが決めたいことを考えます。ここでは、あなたが考えた選択肢を、ワークシートの左列選択肢枠に書きこみます。

手順②：判断基準を書く

続いて、これらの選択肢を評価するための、あなたなりの「判断基準」を決めてワークシート上枠に記入していきます。判断がぼやけないように、なるべく具体的な内容で書くようにしましょう。

手順③：選択肢と重要度に点数をつける

まず各選択肢の枠内に、判断基準をもとに5段階の点数をつけ、値を記入します。続いて、「重み付け」枠にその判断基準の重要度を5段階で評価し、その数の☆を塗っていきます。つまり、あなたがどの判断基準を大事にしているかを点数化することです。

手順④：合計点を出す

その後、右下の各点線枠内に、先ほど付けた重み付けの値と選択肢の点数を掛け算した結果を記入。それぞれの選択肢の点数を合計し、一番右列に合計点を記入します。

手順⑤：内容への「突っ込み」をいれよう

最終的な合計点を見てみましょう。ここで最も高い点数となった選択肢が、あなたが色々な判断基準で考えたときの、最も納得できそうな選択肢です。ただ本当にそう言えるでしょうか…？今回の数字はあなたがイメージでつけたもの。最後に、前回同様つくった表に対して「重み付けはこれでいいか」「点数は事実に基づいているか」「他に追加する意見はないか」といった観点でどんどん突っ込みをいれて、色ペンでメモしておきましょう。

(「ミライの選択」テキストより)

(注2) 大樹エアロスペーススクール…JAXAが主催する「宇宙科学実験の最前線」を体験する3日間のプログラム。

図表4 総合評価法ワークシート 生徒の記載例

1年

☐	A.考えている×始めている
☐	B.考えている×やっていない
☐	C.考えていない

		判断基準								総合点	
		それぞれの学問に対して目的を持っているか	現時点での得意・不得意		将来の収入は確保できるか・仕事に繋がるか		落ち着いた生活ができそうか				
重みづけ		★★★★★	☆☆☆☆		★★★★★		★★☆☆☆☆				
選択肢	物理学	525	2	2	2	8	2	4	3	9	
	生物学	420	5	5	2	8	2	4	3	7	
	地理学	315	4	4	5	20	4	8	4	7	
	考古学	315	4	4	3	12	4	8	3	9	

メモ欄

・僕自身の考えでは、選択肢のなかで学びたいのは物理学だが、図表にしてみると地理学が一番評価が高いことになった。
・地理の知識は多くの分野で用いられるため、地理学は将来の職業に活かしやすい。対して他の4つは専門的なので、職業にはつながりにくい。

○	A.考えている×始めている
	B.考えている×やっていない
	C.考えていない

メモ欄
・僕自身の考えでは、選択肢のなかで学びたいのは物理学だが、図表にしてみると地理学が一番評価が高いことになった。
・地理の知識は多くの分野で用いられるため、地理学は将来の職業に活かしやすい。対して他の4つは専門的なもので、職業にはつながりにくい。

1、2年生が合同で参加するもので、「時間」を題材に学問を考えるプログラム（注3）と、未来に関連するニュースから未来の社会を創造するプログラム（『ミライの洞察』）を隔年で実施してきた。

「時間」を題材に学問を考えるプログラムでは、「時間とは何か?」「暦（こよみ）はどのように決まった?」「時差ぼけは治療できるのか?」などといった17の「時間の問い」に対し、各問いに答える学問は何かとその理由についてグループで意見交換しながら考える。たとえば、「時間はいつどこでどのように始まった?」という「時間の問い」に答える学問として、地球・宇宙科学を挙げ、そう考えた根拠には「宇宙の誕生前は時間が存在しなかったから」といった根拠を自分なりに考えて書くものだ。

他方、「ミライの洞察」のプログラムでは、ウェブや本・新聞から未来の兆しを感じる記事を見つけ、兆しを組み合わせ未来の社会に関するアイデアをグループで考える。約15年後の社会の未来（暮らしや学び・仕事）について広く、じっくりと考え、自分の将来とつなげて考える機会となっている。

「こうした活動を通し、『数学や理科が好きだから理系』『成績もよく、周りも医師をめざしているから医学部』などと漠然と決めていた生徒も、興味・関心や社会とのつながりから進路を考えられるようになります」

さらに、冬の合宿は、1年生と2年生が合同で行うこ

とで部活動以外の学年を超えた交流の場となり、下級生に教えるスキルを身につける機会にもなっている。鈴木先生は、「生徒たちは、合宿後も廊下で挨拶をしたり、1年生が2年生のクラスに行って進路やその他のことについて質問や相談をしたりしているようです。2年生は3年生になっても、後輩のことを気にかけてくれます。そうした輪が徐々にできてきました」と顔をほころばせる。

最後に、鈴木先生に探究活動を進路選択につなげる工夫について尋ねた。探究活動を進路選択につなげていくことは簡単ではないと前置きしつつも、国公立大や難関私立大への合格者の増加など、手ごたえもあるという。「『ミライ研』のプログラムを軸に、総合的な探究の時間をはじめとしたさまざまな活動が有機的につながってきたと感じます。進学実績の向上を一過性のものにせず、生徒が自ら進路の選択肢を創り、優先順位を決め、自走できるよう支援していきたい」と語ってくれた。

旭川実業高等学校

◇所在地：北海道旭川市末広8条1丁目

◇創立：1960（昭和35）年

◇卒業生数：2022年3月卒業生325名

◇卒業生の進路：国公立大22名／私立大86名／短大6名／専門学校56名／就職119名／その他23名

（注3）「ミライの選択」の中にある、「選択肢を創る」ワークの1つ。「学問」を取り上げながら選択肢の創り方を学ぶ。

生徒の興味・関心に基づいた探究活動のため 好きなことを見つけるきっかけづくりを支援

河合塾



Point

- ✓ 生徒の興味・関心に基づいた探究活動は進路選択につながる
- ✓ 河合塾は生徒の興味・関心を見つけるきっかけづくりを支援
- ✓ 先生の「しくじり」から学ぶオンライントークセッションを実施

先行実施の成果が見えつつも

「総合的な探究の時間」の課題は多い

「総合的な探究の時間」は2019年4月から先行実施されている。既に取り組んでいる学校の先生方はどのような面で生徒の変化を感じているのだろうか。Guideline読者を対象としたアンケート（2022年2～3月実施）では、「総合的な探究の時間」を通じて感じた生徒の変化として、「社会課題への関心の高まり」（57%）、「進路選択への前向きな姿勢」（39%）、「課題発見力・課題解決力の向上」（38%）などが上位に挙がっていた＜図表1＞。Part 2で紹介した高校への取材でも、「生徒の好奇心、興味・関心をもとに探究活動を行えば、自然と進路選択につながっていく」というコメントを複数の高校からお聞きしたが、この読者アンケートの結果からもこうした様子が見えてくる。

探究活動の意義や成果も見えはじめているが、課題はまだ山積だ。先行実施の3年間で踏まえて、今課題に感じていることを尋ねたところ、半数を超える先生方が、「教員の多忙さ」（56%）、「教員の指導力の差」（53%）、「評価の難しさ」（51%）を挙げていた＜図表2＞。これらの理由として、次のような記述があった。

- 3年間を通しての目標を策定し、構造化の上「探究」に取り組めば成果が表れると思うが、そうした組織になっていない。また教員の多忙のため、そうした根本的な課題に取り組むこともできないでいるから。
- 目的・目標がはっきりせず、生徒にとっても教員にとっても積極的に取り組むことが難しい。

- 理念はすばらしいが、生徒に対する教員の人数負担が大きすぎる。
- 主体性を発揮できない生徒をどう指導するかが難しい。
- 先行実施してみたが、実質総合学習から抜け出せなかったものが多数出てきたため、教員の指導力の差を大いに感じた。
- 関係する教員の企画力と実行力にかかっているように感じる。また相当なエネルギーを必要とする。

図表1 「総合的な探究の時間」の活動を通じて感じた生徒の変化（複数選択可）（n=234）

項目	度数	%
社会課題への関心の高まり	134	57%
進路選択への前向きな姿勢	91	39%
課題発見力・課題解決力の向上	88	38%
教科横断的な視野の獲得	49	21%
学習意欲の喚起	40	17%
社会課題と高校での学びの関係性の理解	35	15%

図表2 先行実施を踏まえ、「総合的な探究の時間」の課題（複数選択可）（n=239）

項目	度数	%
教員の多忙さ	134	56%
教員の指導力の差	127	53%
評価の難しさ	122	51%
教員間の連携	107	45%
自校で育成したい資質・能力を踏まえた探究活動の設計	93	39%
生徒の活動時間の確保	91	38%
探究活動に対する生徒の主体的な参加	73	31%
他教科との連携	69	29%
外部の連携先の確保	53	22%

河合塾は興味・関心を見つけるきっかけづくりを支援 先生方は生徒の伴走に力を注いでほしい

こうした課題の中でも、「自校で育成したい資質・能力を踏まえた探究活動の設計」のように、学校の特徴や地域の特性にあわせて自校で策定したほうがよいものもあるが、部分的には外部業者が支援できるところもあるだろう。河合塾で各種アセスメントや河合塾未来研究プログラム（ミライ研）を扱う山口大輔チーフは、「好きなことが見つからない生徒に対して、興味・関心の“タネ”探しやきっかけづくりなど、お手伝いできる部分はあります」と話す。

たとえば、ミライ研は、進路選択の「決め方」を学ぶ『ミライの選択』、未来に関連するニュースから未来の社会を創造する『ミライの洞察』、「AI・ロボットと働き方」「ゲノムと生命倫理」のような先端科学を題材に社会問題を分析する『ミライの科学』がある<図表3>。いずれも、学校の要望や予算に応じて、河合塾スタッフによる授業実施も教材のみの提供も可能だ。

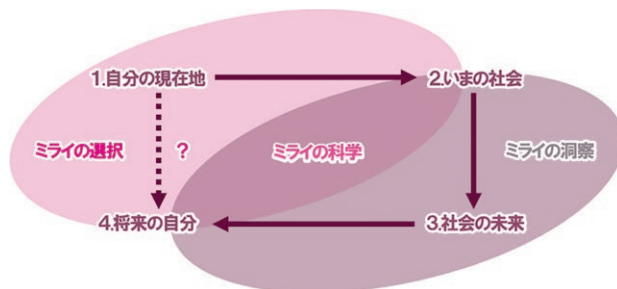
「ただし、こうしたプログラムは生徒に気づいてもらうきっかけにすぎません。自分が興味・関心のある事柄を見つけ、それを起点に探究活動に取り組み、進路選択につなげていくために、先生方には生徒一人ひとりに寄り添ってほしいと考えています。きっかけづくりはお手伝いできるので、先生方は生徒の相談役となり、伴走していただきたいと思っています」

先生の「しくじり」から学ぶトークセッション 試行錯誤のプロセスから壁を乗り越えるヒントに

2022年度より全面実施となった「総合的な探究の時間」。河合塾では、「探究」の授業をテーマとしたトーク

図表3 河合塾未来研究プログラム（ミライ研）

中高生と未来をもっと身近にする探究学習プログラムで、未来と自分の関係を洞察、選択、科学の3つの切り口で深めていく。
(<https://www.kawaijuku.jp/jp/research/future/>)



01 ミライの 選択	02 ミライの 洞察	03 ミライの 科学
具体的な進路をどう決めるのかを入口に、自分の価値観や判断基準を考えるプログラム。	未来の兆しを感じさせる身近なニュースを素材に、自ら望む未来の社会像を創るプログラム。	外せない時流である「AI・ロボットと働き方」と「ゲノムと生命倫理」を深めるプログラム。
詳細	詳細	詳細

※「ミライの選択」は、公開オンライン体験会を実施いたします。
実施日：7月22日（金）、7月28日（木）
両日ともに16：30～17：30
右記のQRコードよりお申し込みください。



※「ミライの選択」学校別オンライン体験会
各学校で3名以上の教員を集めていただければ、学校別のオンライン体験会も実施可能です。詳細は、河合塾営業担当者か、河合塾アセスメント事業推進部（未来研究プログラム担当：miraiken@kawai-juku.ac.jp）までご相談ください。

セッションをオンラインで開催する。「総合的な探究の時間」に先行して取り組んできた先生をお招きし、奮闘や試行錯誤のプロセスを「しくじり」として語っていただく予定だ。新しいことに挑戦するための周囲や地域の巻き込み方・環境づくりといった側面にも触れながら、成功体験ではなく、あえて試行錯誤のプロセスに注目し「しくじり」として語ることで、これまであまり語られることのなかったさまざまな課題に迫り、チャレンジする楽しさとその価値について現場の先生方と共有する。先生方の悩みの解消や壁とその乗り越え方のヒントになれば幸いである。

トークセッション 先生のしくじりから学ぶ —「総合的な探究」の困難と希望—

日時

- 第1回 6月16日（木）16：30～18：00 寺西望 先生（金沢高等学校）＜終了＞
- 第2回 7月14日（木）16：30～18：00 松田雅彦 先生（大阪教育大学附属高等学校平野校舎）
- 第3回 9月1日（木）16：30～18：00 大山力也 先生（元・鳥取城北高等学校）

実施方法

オンライン

対象

中学校・高等学校の教員など教育関係者

定員

各回200名

参加費

無料

詳細・申込方法

<https://www.kawaijuku.jp/jp/news/detail.html?id=501>

申し込み期限

※定員に達し次第、締切となります

<第2回> 7月12日（火）<第3回> 8月30日（火）